

第 158 回 CiecAP 運営委員会 国際会議補助報告書

資料 No.	< SC3C 関係>国際会議報告書
158-3 / SC3C-	SC3CPlenary「機器・装置用図記号」ベルリン会議 20060921 - 20060922
資料 No.	< SC3D 関係>国際会議報告書
156-3 / SC3D	SC3D「電子部品のデータ要素」ベルリン会議 20060919 - 20060925
資料 No.	< SC23J 関係>国際会議報告書
158-3 / SC23J	SC23J「機器用スイッチ」ベルリン会議 20060925 - 20060927
資料 No.	< SC47D 関係>国際会議報告書
158 / SC47D-	SC47D「半導体パッケージ」ベルリン会議 20060510
資料 No.	< SC48B 関係>国際会議報告書
158-3 / SC48B -	SC48B&WG3,5&6「コネクタ/WGs」ベルリン会議 20060919 - 20060922
資料 No.	< SC48D 関係>国際会議報告書
158-3 / SC48D-	SC48D/WG2,4,5「電子機器の機械的構造」ベルリン会議 20060920 - 20060922
資料 No.	< SC62A 関係>国際会議報告書
158-3 / SC62A-	SC62A「医用電気機器の共通事項」デルフト会議 20061002 - 20061006
158-3 / SC62A-	SC62A / MT23「医用電気機器の共通事項 / EMC」デルフト会議 20061002 - 20061006
資料 No.	< SC62D 関係>国際会議報告書
158-3 / SC62D-	SC62D「医用電子機器」デルフト会議 20061003-20061005
資料 No.	< TC 8 0関係>国際会議報告書
15 8 - 3 / TC80-	TC80/WG14「基地局・航法支援」セントピーターズバーグ会議 20060821 - 20060825
158 - 3 / TC80-	TC80/WG13「航海関連情報表示」アーリントン会議 20060828 - 20060831
158 - 3 / TC80-	TC80/WG1「レーダ・プロットング装置」ハンブルグ会議 20060919 - 20060921
158 - 3 / TC80-	TC80/WG6「デジタルインタフェース」ロンドン会議 20061003 - 20061005
資料 No.	< TC 9 3関係>国際会議報告書
158-3 / TC93-	TC93「デザインオートメーション」ベルリン会議 200600918 - 20060922
資料 No.	< TC 1 0 0 / TA1 関係>国際会議報告書
158-3 / TC100 / TA1-	PT62487 (TV 平均消費電力測定法 PJ)ベルリン会議 20060927 20060928
資料 No.	< TC 1 0 0 / TA2 関係>国際会議報告書
158-3 / TC100 / TA2	TC100 / TA2 「マルチメディアシステム・機器 / マルチメディアシステム・機器のカラーマネジメント」ベルリン会議 20060927-20060928
資料 No.	< TC 1 0 0 / TA4 関係>国際会議報告書
158-3 / TC100 / TA4	TC100 / TA4 「マルチメディアシステム・機器 / デジタルシステムインタフェース&プロトコル」ベルリン会議 20060927-20060928
資料 No.	< TC 1 0 0 / TA5 関係>国際会議報告書
158-3 / TC100 / TA5	TC100 / TA5 「マルチメディアシステム・機器 / ケーブルネットワーク」ベルリン会議 20060925-20060929
資料 No.	< TC 1 0 0関係>国際会議報告書
158-3 / TC100-	TC100「オーディオ・ビデオ・マルチメディア機器及びシステム」ベルリン会議 20060929
158-3 / TC100-	TC100/AGS「マルチメディアシステム・機器 / 戦略諮問会議」ベルリン会議 20060926 - 20060929
158-3 / TC100-	TC100/GMT「マルチメディアシステム・機器 / 総合メンテナンス会議」ベルリン会議 20060926 - 20060929
158-3 / TC100-	TC100/TA6「マルチメディアシステム・機器 / 放送・業務用ストレージシステム及び機器」ベルリン会議 20060927
158-3 / TC100-	TC100/TA7「マルチメディアシステム・機器 / 民生用ストレージシステム及び機器」ベルリン会議 20060926 - 20060929

158-3 / TC100-	TC100/TA9「マルチメディアシステム・機器 / エンドユーザネットワークのための音声映像マルチメディアアプリケーション」ベルリン会議 20060926 - 20060929
158-3 / TC100-	TC100/TA10「マルチメディアシステム・機器 / マルチメディア電子出版および電子書籍」ベルリン会議 20060928
158-3 / TC100-	TC100/62045「マルチメディアシステム・機器 / 機器のプライバシー保護」ベルリン会議 20060927
資料 No.	< TC 1 0 0 / TA8 関係 > 国際会議報告書
158-3 / TC100 / TA8	TC100 / TA8 「マルチメディアシステム・機器 / マルチメディアホームサーバシステム」ベルリン会議 20060928
資料 No.	< TC 1 0 3 関係 > 国際会議報告書
158-3 / TC103	TC103「無線通信用送信装置」ラヂファンス会議 20061010 - 20061010
資料 No.	< CISPR / I 関係 > 国際会議報告書
158-3/CISPR/I-	CISPR / I / WG2 & 3「マルチメディア機器等に関する EMC / エミッション」米国バンクーバー会議 20060807 - 20060811
158-3/CISPR/I-	CISPR / I / WG 1、2、3 & 4「マルチメディア機器等に関する EMC / エミッション等」キスタ会議 20060918 - 20060920

(社)電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号： 158-3 / SC3C-

提出日： 2006 年 10 月 16 日

(報告者記載) 整理番号：

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 中村祐二 報告書作成者氏名： 堀本佳成 (会社名) 日本電気 (株) NEC デザイン

出席会議名(半角) SC3C Plenary	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	SC3C (半角)
	<input type="checkbox"/> TC <input checked="" type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	機器・装置用図記号
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
		<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催		
開催期日	2006 年 9 月 21 日 ~ 2006 年 9 月 22 日			
開催場所	(国名) ドイツ	(都市名) ベルリン		
ファシリテーター	中村祐二	幹事国 日本		
参加国及び 参加人数	7ヶ国、主な国名 フィンランド、フランス、英国、スウェーデン、日本、中央事務局(スウ)、参加人数(14)			
日本人 出席者名(会社名)	[:補加対象者…(例): 電子太郎(JEITA 電子)] ()堀本佳成、中村祐二、池田宏明、毛利元也、高田捷雄			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
<p>[目的] IEC 60417 に関する図記号提案文書審議、特に日本提案の IT(PC)用 9 図記号に関する CDV 文書 Close 後の対応が重要。他に IEC/ISO Joint Database 改善、SC3C 将来活動内容(Chairman's proposal)の検討</p> <p>[成果]</p> <p>(1) IEC 中央事務局から報告： ・IEC Guide 108 Ed-2 が発行され、“Horizontal Committees” “Horizontal Standards” の概念が導入された。</p> <p>(2) Validation Team 60417： ・C00049 three-position enabling switch 図記号—投票の結果：リジェクト。 ・C00042/C00043 高周波手術機器用図記号—SC3C の審議対象とせず、リジェクト ・C00062 工事現場のトランス表示図記号—SC3C の審議対象として承認。</p> <p>(3) IEC 80416-1 (図記号創作の原則) Ed2： IEC 60417 に登録する図記号の線幅が主な議題のテーマ。CDV の回付前に、ドイツ・オーストリアより意見書が提出され、内容を審議。CC 文書の内容を盛り込んだ JWG 11 の検討結果を CDV 文書として回付する。</p> <p>(4) 各 PT 活動： PT 27 (放射線機器用図記号)；7 図記号を規格化し PT を解散する。</p> <p>(5) 回付 (Comprehensive Procedure) 文書の審議： ・60417/f125 (image 図記号)—矩形図記号、パレル図記号について整合性を探る PT 設置を決定。 ・60417/f127 (日本=JEITA)提案 IT 関連図記号)—9 図記号の内、2 図記号は規格化決定。他 7 図記号については、コメントを付け、FDIS 文書化することを決定。 ・60417/f128 (PT 34) “do not immerse in any liquid” 図記号—2CD を回付することを決定。 ・通信機器図記号—ITU-TSG2 からのエキスパートを入れ、新 PT を設置する。PT リーダー：日本 (報告者)</p> <p>(6) Chairman's proposal の実行： 規格 IEC60417 の諸矛盾を解決するための Task Force の設置を決定 (図記号のユーザーによる分類・使わない 図記号の特定、共通図記号要素の研究) 既に同様の TF を立ち上げた ISO/TC 145/SC 3 との連携が必要。 リーダー：中村 祐二 (日本) Mr. Frederick Brigham (UK)</p> <p>(7) 次回会議開催 TC 3 会議に合わせて開催する。 以上</p>				

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

(社)電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号：158-3/SC3D

提出日：2006年9月26日

(報告者記載)整理番号：3D-02

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：南野 典子 報告書作成者氏名：村山 廣 (会社名)(株)東芝

出席会議名(半角) SC3D SC3D/WG2 SC3D/WG2-SC65 B/WG11 JWG TC3	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	SC3D(半角)
	<input type="checkbox"/> TC <input checked="" type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	電子部品のデータ要素
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input checked="" type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催	
開催期日	2006年9月19日～2006年9月25日			
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)ベルリン		
〒/州/国/市	D. Radley/A. Dijkstra	幹事国 オランダ		
参加国及び 参加人数	7ヶ国、主な国名 イギリス、オランダ、ドイツ、フィンランド、スウェーデン、中国、日本、参加人数(14)			
日 本 人 出席者名(会社名)	[:補放線者…(例): 電子太郎(JEITA 電子)] 荒木 純夫(ビューポイント研究所)、三谷 修 村山 廣(東芝)			
<p>議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)</p> <p>【背景・目的】欧米及び日本での電子カタログ辞書データモデルとして広く参照されている国際標準規格(ISO13584-IEC61360 シリーズ)について審議を行う。特に、ISO13584-IEC61360 シリーズの利用を進める、ISO-IEC Guide 77 についての意見交換、Blank Detail Specification(BDS)についての説明、データ辞書についての著作権、Part2 (ISO13584-42) の第2版 (Ed2) についての検討、IEC-CDD(Component Data Dictionary)に新たに登録されようとしている、IEC SC65B の工業計器(industrial process measuring instrument) 辞書の検討手順等について審議する。この内9月19日は、SC65B/WG11 と合同で、特に BDS および著作権関連の検討を行った。</p> <p>【成果・問題点】</p> <p>1. BDS とは、辞書レベルと個々の取引レベルとの中間レベルで、辞書の定義を変えずに制約を変えるためのインタフェースレイヤーであることが分かった。Ondracek 氏の提案による一応のデータモデルの案はあるが、情報要件については、これから詰める段階である。基本データモデルは、IEC61360-2 とダブルリンク規格である ISO13584-42Ed2 に対して ISO/TC184/SC4/WG2 で東芝が提案した「component とか material という固有の名前ではなく、必要に応じて属性としてサブクラス種名を設定できる Named Subclass」とほぼ同じ。なお BDS という名称は仮称である。Generic Design Specification に名称変更するという意見も出ているが、まだ決定はしていない。</p> <p>2. CDD に提案されたものに対して振る ID について、日本から「仮発番にすべき」とのコメントがあったが、具体的な ID 発番手続の提案が日本側の宿題になっており、まだ SC3D としては結果を受け取っていないとの認識である。状況を確認し適切な対応が必要。</p> <p>3. 現状の CDD の定義が ISO-IEC Directive 2 の要求する ISO 704 および ISO 10241 の仕様に適合していないとの指摘を行った。これについては、少なくとも新規登録については、定義が仕様に合致するよう修正することを確認した。</p> <p>4. 辞書のコピーライト/利用権に関しては、明確な文章による規定を開発する旨の決議を IEC-SMB に求め、これにより関係 TC/SC から適切に代表を選んでタスクフォースを結成すべしとの方向に意見が纏まった。</p> <p>5. 2007年7月に鹿児島県指宿市で開催予定の SC3D 夏会議の日程を仮決めした。7月3日(火)から7月5日(木)とし、5日を ISO TC184/SC4/WG2 との合同会議とする。また7月6日(金)には、ISO-IEC JTC1/SC32 他を加えたオントロジの登録機構や保守に関するテーマを拡大したワークショップを開催する方向も了承された。</p> <p>次回の SC3D/WG 会議は、2007年2月14～16日ドイツのミュンヘンで開催される。ただし SC3D/WG2 と SC65B/WG11 との Joint Session をオーストリアの Vienna で本年12月中旬に開催し、コリオリ流量計を例に SAP-XML 形式から Tag Format と呼ぶ IEC CDD に登録するための中間形式への変換を行い、プロパティのチェックを行う予定。以上。</p>				

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 賀川 和義 報告書作成者氏名： 四宮 繁樹 (会社名) アルプス電気(株)

出席会議名(半角)	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	SC23J(半角)
SC23J	<input type="checkbox"/> TC	<input checked="" type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG
SC23J/MT1	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG
SC23J/MT2	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG
	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他	名称 (日本語)	
	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他	機器用スイッチ	
	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催	
開催期日	2006年9月25日 ~ 2006年9月27日			
開催場所	(国名)ドイツ		(都市名)ベルリン	
チャirman/コパナ	Mr. T. Korssell (スウェーデン)		幹事国 ドイツ	
参加国及び 参加人数	9ヶ国、主な国名 デンマーク、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、スウェーデン、英国、米国、日本、参加人数(14)			
日本人 出席者名(会社名)	[:補加対象者…(例): 電子太郎(JEITA電子)] ○ 四宮 繁樹(アルプス電気), ○ 須藤 清隆(山武)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など)	(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大26行まで記入できます。)			
<p>1. SC23J/MT2 (参加3ヶ国, 4名 コパナ: 日本 四宮)</p> <p>(1) IEC61020-1 の CD 文書(23J/287/CD)に対する各国のコメントはなく、日本からのコメントについて審議した。</p> <p>(2) 数ヶ所の試験項目で Object(目的)が記載されていないものがあり、CDV 作成時に日本から提案することとなった。</p> <p>(3) はんだに関する試験温度は、鉛フリーはんだに対応した新しい規格への変更が認められた。ただし、参照している IEC60068-2-20 の改正版はまだ CD 段階(91/554/CD)であるため、最終的には FDIS を待って確認する。</p> <p>(4) SMD のはんだ付け規格 IEC60068-2-58 を取り込むに当たって、試験温度を限定せずに、表 1 を全て含める。</p> <p>(5) 今回の検討結果をもとに、「CC on 23J/287/CD with MT2 considerations」を回覧する。</p> <p>(6) 今後の日程 (CDV 及び改訂 IEC61020 にフランス語版が必要な場合は、下記より2ヶ月程度遅くなる。) ・ CDV 回覧: 2007年1月, ・ 投票期切: 2007年4月, ・ FDIS: 2007年10月(当初より約1年の短縮)</p> <p>(7) 次回会議予定 上記 CDV に対して各国のコメントがあった場合、2007年5月23日にストックホルムで MT1 と同時開催。</p> <p>(8) その他: 会議終了後、IEC61020-1 へ「スプリングスイッチ」を入れるかどうかについて国際幹事より打診があった。</p> <p>2. SC23J/MT1 (参加7ヶ国, 11名, コパナ: Mr. A. Groves 英国)</p> <p>(1) IEC61058-2-1(コードスイッチ)の改正案については、コメント回覧終了後、次回会議で審議する。</p> <p>(2) IEC61058-2-5(切替機構)及び IEC61058-2-4(独立形固定スイッチ)の改正時期について審議した。</p> <p>(3) 7ヶ端子に似た形状の端子をはんだ端子として使用する場合の対応について審議した。米国は、7ヶ端子として誤った使い方ができてしまうので、はんだ端子と7ヶ端子の両方の評価が必要との意見。一方、他国は、文書で明確になれば、文書以外の使用方法では最終製品の評価で OK とならないので、問題ないという意見であった。</p> <p>(4) 超小型スイッチの空間距離については、米国からの文書による提案を受けて、次回の MT1 会議で審議する。</p> <p>(5) 次回の MT1 会議は、2007年5月24,25日にストックホルムで開催を計画。</p> <p>3. SC23J (参加9ヶ国, 14名, チャirman: Mr. T. Korssell スウェーデン)</p> <p>(1) MT2 において、IEC61020-1 の CDV に対する意見が出なかった場合、FDIS の回覧を3ヶ月程度遅くアップすることを確認した。また、23J/286/MCR のスケジュールを全体で約1年早めることが承認された。</p> <p>(2) IEC61058-1 A2 Ed.3 に対するイタリアの反対投票の内容を確認し、イタリアは次回 MT1 会議への参加を希望した。</p> <p>(3) IEC61058 及び IEC61020 の今後のメンテナンス計画を確認した。改正作業は5年周期で行うので、現在作業中の改正後のメンテナンスは、IEC61058-1 については2012年、IEC61020-1 については2013年となる。</p> <p>(4) 次回の SC23J の会議は、2008年にブダペストで計画されている IEC 総会と同時開催で検討する。 以上</p>				

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 中島宏文 報告書作成者氏名: 中島宏文 (会社名) NEC エレクトロニクス

出席会議名(半角)	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	SC47D (半角)				
SC47D WG1 WG2	<input type="checkbox"/> TC	<input checked="" type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他	名称 (日本語)	半導体パッケージ外形標準化
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input checked="" type="checkbox"/> WG	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input checked="" type="checkbox"/> WG	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催	
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他		
開催期日	2006年 9月 28日 ~ 2006年 9月 29日							
開催場所	(国名) ドイツ			(都市名) ベルリン				
チャネル/エペナ	中村			幹事国 米国				
参加国及び 参加人数	4ヶ国 主な国名 ドイツ, 米国, Russian Federation 日本, 参加人数 (14)							
日本人 出席者名(会社名)	[: 補放者... (例): 電子太郎(JEITA 電子)] 中村(ユニテク), 平岩(富士通), 大野(東芝), 大塚(東芝), 吉田(松下電器), 中島(NEC エレ)							
議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は 見かけは1行ですが 所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)								
1. SC47D 全般の課題(非公式討議) 個別テーマに入る前に, SC47D 全般の課題について公式議事録には記録しない前提で討議した。課題は SC47D の幹事である米国の J. Carlson は既に幹事職を辞退表明しているにもかかわらず, 米国 ANSI の態度がはっきりせず幹事の実務が停滞している。 半導体パッケージを設計できる国が米国, 日本, 韓国, ドイツに限定されてきており, 規定を作成するのに必要とされるプロジェクト参加メンバー4カ国が集めにくくなっている。 SC47D に積極的参加国として登録されている国のうち, 中国, ルーマニア, 英国, オーストリア, フランスはパッケージを設計しているわけでもなく, SC47D の窓口担当者が誰かもわからない。積極参加するならばメールアドレスを公開して意思疎通ができるようになっていなければならない。 以上の3点を公式に SC47D の意見として IEC Central Office の Denise Chew に述べ, については CO として米国に正式に提出していただくように依頼した。								
2. IEC web 機能の充実について Meislesh 氏から IEC の web 機能の向上について説明があった。エンドユーザーに web を介して標準規定を提供すること, 標準規定のメンテナンスをしやすくすることを目指した機能充実である。 (私的見解として, IEC や JEDEC と比較して JEITA の web はますます貧しく見えてくるのが残念です。)								
3. WG1 関連テーマ 半導体パッケージ外形の個別規格を決める WG1 の審議内容としては, 日本から提案されているものは 2/3/4 端子の個別半導体パッケージ, ドイツからのパワーデバイス用パッケージ, 米国からの Die size BGA であり, 特に議論もなく円滑に審議された。特に動きのあった案件は IEC 60191-2 f 57 Ed. 1.0 (2,3,4 端子個別半導体/日本案件) 名称を判りやすく変更して FDIS を発行する。 IEC 60191-2 f 64 Ed. 1.0 (3,5,6 端子表面実装デバイス/ドイツ案件) 日本が製造しているラインアップも含めてほしいという提案したが新規規定として検討して, 本規定には含まないことに決まった。								
4. WG2 関連テーマ IEC 60191-6-14 Ed. 1 と-15 Ed.1 (SOJ と SOP の測定方法/日本提案) は Global Drawing Format の内容が固まるまでは保留にしていたが, GDF を BGA 系にのみ適用するとの決定を受けて再開した。しかし, CD 投票から 2年もたっているために NP と CD を同時並行的に進めることになった。 IEC 60191-6-16 Ed. 1 (ソケットの名称定義/日本提案) は CDV で可決されたので FDIS に移る。 PNW 47D-652 Ed. 1.0 (BGA デザインガイド/日本提案) は NP として賛成 75% を得たものの, 必要とされたプロジェクト参加国 4カ国を満たさない 3カ国のみであったので否決された。しかし本規定は JEITA 規定として発行されているので, 日本はリエゾン D に許容されている特権 PAS を発動することを検討する。 PNW 47D-653 Ed. 1.0 (積層パッケージのデザインガイド/日本提案) は可決されて CD を 11月未までに発行する。								
5. その他								

WG2 の Convenor は今まで M. Brezda が担当していたが、Infineon 退職に伴い M. Ahr が担当することになった。
米国、韓国が出席しやすい JEDEC JC11 の 7 月定例会議（7 月 24 日～26 日）に合わせて米国で行う案が有力である。

- [注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
 3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
 4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
 5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局: (社)電子情報技術産業協会 標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11 ((三井住友海上別館ビル) Tel: 03-3518-6435 Fax: 03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

(社)電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号： 158-3 / SC48B-

提出日： 2006 年 10 月 11 日

(報告者記載) 整理番号： H18SC48B

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 前田 太門 報告書作成者氏名： 小島 横雄 (会社名) タイコエレクトロニクスアンプ

出席会議名(半角)	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	SC48B (半角)
SC48B/WG3	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他	名 称 (日本語)	コネクタ
SC48B/WG5	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
SC48B/WG6	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
SC48B	<input type="checkbox"/> TC <input checked="" type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
開催期日	2006 年 9 月 19 日 ~ 2006 年 9 月 22 日			
開催場所	(国名) ドイツ	(都市名) ベルリン		
〒/ア/エ/パナ	G. Weking/D. Jooren/U. Blossfeld	幹事国 米国		
参加国及び 参加人数	10ヶ国、主な国名 米、独、英、仏、伊、スイス、オランダ、参加人数(26)			
日 本 人 出席者名(会社名)	[: 補加者... (例): 電子太郎(JEITA 電子)] 小島横雄(タイコエレクトロニクスアンプ)、古澤朝俊(本多通信工業)、安田圭一(NTT AT)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
<p>1. WG 3 (Connector)</p> <p>(1) 61076 - 3 - 112: IEEE1394a, 4p AV コネクタ TC100 から依頼された日本提案は、IEC 61076-3-112: Connectors for electronic equipments - Part 3-112: Rectangular connectors - Detail specification for rectangular connectors with four contacts for high performance serial bus for consumer audio/video equipment. として2006年4月27日付で発行された。</p> <p>(2) 60760: 平形接続子 IEC 60760 と IEC 61210 の整合文書が 48B と 23F の合同プロジェクトチームにより作成された。この原案は、61210 が主体で 60760 が吸収された状態でまもなく 61210 の改訂版の CD 文書として各国へ回覧される。 この整合文書が国際規格として発行された段階で 60760 は、廃止される。これに伴い JIS C 2809 の改定が必要となる。</p> <p>(3) 60050-581 (IEV 581) Terminology TC48 関連の用語集が TC1 の文書 1/1982/CDV として各国へ回覧されている。この文書に対し各国から多数のコメント(独 113、日 59、仏 49、米 3) が寄せられた。プロジェクトチームによりこれらのコメントを検討した。 検討結果は、コメント集 1/xxxx/CC として各国へ回覧する予定。</p> <p>2. WG 5 (Test Method)</p> <p>(1) 60512-16-X (機械的試験) の規格 13 件は、2006 年 9 月末までに CDV 文書として各国へ回覧する予定。</p> <p>(2) 60512-25-8 (Balance of symmetrical signals): ITU に同じ試験法があり一般に普及しておりこのプロジェクトを進行させる意味がなくなった。このプロジェクトをステージ 0 にすることに決定、SC48B の承認を得た。</p> <p>(3) 60512-26-100 (Measurement setup, test and reference arrangement for connectors according to IEC 60603-7) 適用範囲を 500MHz にしてほしいという独コメントは、現状の 250MHz とし、適用範囲の拡張は、ボランティアを集め新しいプロジェクトを起こすことにした。</p> <p>3. WG 6 (Connection Technology)</p> <p>(1) コンプレッションマウント接続 (IEC 60352-X) 日本提案 (48B/1680/NP) のコンプレッションマウント接続は、IEC60352 - 8 : Solderless connections - Part 8: Compression mount connections - General requirements, test methods and practical guidance として承認されたとセクレタリーから報告があった。</p>				

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

(社)電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号：158-3/SC48D

提出日：2006年9月30日

(報告者記載)整理番号：H18SC48D

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：末光 吾郎 報告書作成者氏名：末光 吾郎 (会社名) NEC

出席会議名(半角)	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	SC48D(半角)				
SC48D	<input type="checkbox"/> TC	<input checked="" type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他	名称 (日本語)	電子機器の機能的構造
SC48D/WG2	<input type="checkbox"/> TC	<input checked="" type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input checked="" type="checkbox"/> WG	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他		
SC48D/WG4	<input type="checkbox"/> TC	<input checked="" type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input checked="" type="checkbox"/> WG	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他		
SC48D/WG5	<input type="checkbox"/> TC	<input checked="" type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input checked="" type="checkbox"/> WG	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他		
開催期日	2006年9月20日 ~ 2006年9月22日							
開催場所	(国名) ドイツ			(都市名) ベルリン				
チャリ/エバナ	WALLERS (SMD) / MAZURA (GER)			幹事国 ドイツ				
参加国及び 参加人数	7ヶ国、主な国名 ドイツ、スウェーデン、アメリカ、中国、UK、日本、参加人数(16)							
日本人 出席者名(会社名)	[:補加対象者..(例): 電子太郎(JEITA 電子)] 杉浦申明(愛知医科大学) 犀川慎一(三菱電機) 高田潤二(三菱電機) 坂本憲太郎(リタルル) 末光吾郎(NEC)							
議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改訂しながら最大28行まで記入できます。)								
<p>(背景) SC48Dの各WGにおいては、以下の議論が行われた。</p> <p>WG2 Project-No: IEC61587-1 Ed.2.0 Project leader: Mr. Mazura / Germany ラック・サブラックにおける環境・機構試験および安全性に関する規格制定の討議 すでに、6月に英語版の FDIS として発行されているが、フランス語への翻訳に時間がかかっており、Central Office に対して、2006年10月には発行できるように翻訳業務を加速するように依頼した。</p> <p>WG4 Project-No: IEC 60297-3-105 Project leader: Mr. Suemitsu / Japan IEC60297 基準に則った 1U のシャーシ(PIZZA BOX)の寸法および評価方法に関する規格制定の討議 "PIZZA BOX" という言葉は、適切でないということとなり、"1U Chassis" という名前で進めることとなった。内容については、各国からのコメントおよび提案を加味して、2006年12月31日までに、1stCDを作成し、セクレタリに送付することになった。</p> <p>WG5 Project-No: IEC 62454 Ed. 1, IEC60297 and IEC60917 series に適用する水冷筐体のインターフェイス寸法に関する規格制定の討議 ドラフトのドキュメントに関しては、8月に発行されており、それを基にして各国からコメントが出された。 結果、適用範囲を見直すこととなり、タイトル "TS IEC TS 62454 Ed. 1 (design guide)" として、変更された。 本文書は、2006年12月31日までに1stCDとして送付されてくる予定。また、タイトル変更に伴い、"design guide"と仕様書上に記載する件については、セントラルオフィスに問題ないことが確認された。 SC48D トピックス: SC48Dのスコープについて(Weking氏) 他のTC/SCにおいても、IP(防塵、防水)の規格について、議論される場面がある。(例SC17) 現状、SC48Dは、48Bとの連携される位置づけであるが、そのSCOPEそのものも見直す必要があるのではないかと 提案がなされた。については、UKでのGeneral会議で本件を検討して欲しいとコメントがあった。</p>								

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出して下さい。

3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

(社)電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号: 158-3/SC62A-

提出日: 2006年10月10日

(報告者記載)整理番号: H18SC62A

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 市川義人 報告書作成者氏名: 市川義人 (会社名) オリンパス(株)

出席会議名(半角) TC62 SC62A	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A(半角)
	<input checked="" type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input checked="" type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	医用電気機器共通事項
	<input type="checkbox"/> TC <input checked="" type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催		
開催期日	2006年10月2日 ~ 2006年10月6日			
開催場所	(国名) オランダ	(都市名) デルフト		
チアノ/コパナ	C.Sidebottom	幹事国 オランダ		
参加国及び 参加人数	14ヶ国、主な国名 米、独、スイス、英、オランダ、日本、参加人数(34)			
日 本 人 出席者名(会社名)	[:補加対象者…(例): 電子太郎(JEITA電子)] 根本 幾(東京電機大)、市川 義人(オリンパス株)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
<p>1. SC62A デルフト会議(結果要点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭用医療機器の新JWGのコンビーナがIEC側Mr. Lasthaus(独) ISO側Mt. Hedley-Whyte(米)がノミネートされた。 ネットワーク接続の医療機JWGのNWIPが了承され、IEC/SC62A側コンビーナはMr. Eagles(米) ISO/TC215側がMr. Cooper(米)がノミネートされた。 IEC 60601-1 第3版用の試験フォーマットに関して、WG14より複数のWGが関連する内容でありTC62として関連するエキスパートの協力を得て開発すべきとの提案があり了承された。 IEC 60601-1-11(ホームケア) IEC 60601-1-9(環境を考慮したデザイン)の発行日程がやや遅れる事になった。 IEC 60601-1 第三版のAmendment1の日程が2007年開始2010年終了予定で提案されたが、現在個別財務、副通則を3版に合わせて改正中であり、日程も遅れている。混乱を招くので遅らせるべきとの提案が多く日本もそれに賛同し、2009年開始2012年終了予定に決定した。 IEC/ISO 62366 ユーザビリティ規格制定後、現在のIEC 60601-1-6 医療機器のユーザビリティ規格が廃案になるかどうか、規格が残った場合、二つの規格が存在すると製造業者を混乱させる事を日本意見として提案した。結果、第一ステップとしてIEC 60601-1からIEC 62366を参照させ、第二ステップでIEC 60601-1-6を廃案にする等の方法があるが、今後WGで検討する事になった。 <p>2. TC62 デルフト会議(結果概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> IEC 60601-1 第三版のメンテナンススケジュール変更のアナウンスがあり了承された(SC62Aからの提案) IEC 60601-1 第3版対応の試験フォーマットに関してSC62Aでアドホックグループを作る事になり了承された。 ACOS: Advisory Committee on Safety 安全諮問委員会からSC62Aで扱っている安全規格とSC65Aとは関連が多いので同期あるいは共同して規格の開発をすべき(統合を意味?)との提案があったが、医療機器の性格上異なるので反対意見を提出する方向で当日投票し、全参加国が賛成したため、反対意見を提出する。 副通則のNWIPは全Gに関連するためTC62としてアナウンスすることが提案された(従来SC62Aから出されていた)これに関して議論も多かったが最終的に投票を行い全会一致で決定した。 現在1年8ヶ月ごとのTC62会議であるが、チアノからもっと会議開催間隔を短くすべき、CENELECと同期してできないかとの提案があったが、CENELECでは開催地がヨーロッパだけであり、従来どおりの間隔で開催することになった。(1から2ヶ月の前後はある)次回2008年3月開催地は未定、各SCも同時開催する。 				

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後(6週間以内)にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(社)電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号： 158-3 / SC62A-

提出日：2006年10月10日

(報告者記載)整理番号：H18SC62A

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 市川 義人 報告書作成者氏名： 中田 和成 (会社名) (株) 東芝

出席会議名(半角) IEC/SC62A/MT23	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	62AMT23 (半角)					
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG	<input type="checkbox"/> PT	<input checked="" type="checkbox"/> その他	名称 (日本語)	共通事項：EMC	
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他			
<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他				
開催期日	2006年10月2日 ~ 2006年10月6日								
開催場所	(国名) オランダ			(都市名) デルフト					
ファシリテーター	アメリカ			幹事国 アメリカ					
参加国及び 参加人数	7ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、スウェーデン、オランダ、フランス、カナダ、日本、参加人数(12)								
日本人 出席者名(会社名)	[:補出席者…(例): 電子太郎(JEITA 電子)] 中田 和成 ((株)東芝)								
議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)									
<p>1. 背景と目的</p> <p>IEC 60601-1 第3版の発行に伴い、その副題則の EMC 規格 IEC 60601-1-2 を親規格に整合させる作業を行っており、CDV 文書(62A/522/CDV)も発行されて、ほぼ内容が出来上がった。そこで、さらに次の改定に向けての審議が開始され、EMC 規格を安全規格と性能規格に分ける方向が示されている。どのように分けて、それぞれにどのような要求事項を含めるかについて審議する。</p> <p>2. 成果</p> <p>安全規格と性能規格に分けることに対して、前例がないために各国とも相当悩んでいる。ドイツとスウェーデンで検討してきた案を基に審議を開始したが、基本的なコンセプトが決まっていなかったために、議論が進まなかった。そこで、後半はコンセプトを決めることに大半の時間を費やした。今回得られた結論は以下の通りである。</p> <p>性能規格は試験段階でも容易に判断できるように判定基準(Performance criteria)を設定し、試験レベルは CISPR 24 や IEC 61000-2-5、IEC 61326などを参考にして決める。</p> <p>安全規格は Risk analysis により Basic safety と Essential performance を決め、それに使用環境も加味して、試験レベルを決める。</p> <p>この考えに基づいて試験レベルの案が検討されたが、病院以外の環境での使用も考慮して、現行規格よりかなり厳しいものにする意見が出された。</p> <p>3. 問題点</p> <p>安全規格と性能規格に分けるだけでなく、病院以外の環境も考慮したものにしたいという、欲張った内容で進めているために、非常にわかりにくく、厳しいものとなる動きである。このままでは、試験設備の更新など、膨大な投資も必要となり、混乱を招く可能性が高い。少しでも簡素で使いやすい規格にする努力が必要である。</p>									

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局: (社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11 ((三井住友海上別館ビル) Tel: 03-3518-6435 Fax: 03-3295-8727

(社)電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号：158-3/SC62D-

提出日：2006年10月10日

(報告者記載)整理番号：H18SC62D

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：内藤正章 報告書作成者氏名：内藤正章 (会社名)日本光電工業株

出席会議名(半角) SC62D	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	SC/62D(半角)
	<input type="checkbox"/> TC <input checked="" type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	医用電子機器
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
		<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催		
開催期日	2006年10月3日 ~ 2006年10月5日			
開催場所	(国名)オランダ	(都市名)デルフト		
チャイノコバナ	Dr. Schafer	幹事国 米国		
参加国及び 参加人数	11ヶ国、主な国名 米国、ドイツ、日本、カナダ、韓国など、参加人数(34)			
日本人 出席者名(会社名)	[:補加対象者…(例): 電子太郎(JEITA電子)] 小山裕徳(東京電機大)、内藤正章(日本光電)、市川義人(オリンパス)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
<p>中央事務局の Bailiff 氏から IEC100 周年記念および最近のトピックス(エキスパートの Award, 新しい TC113(電子・電気機器にかかわるナノテクノロジーの規格化)が設立、2007年3月にWSC(World Standards Cooperation)が開催など)について説明があった。</p> <p>もっとも大きな課題は、医用電子機器の個別規格のメンテナンス作業の遅れである。2008年2月までに IEC 60601-1 の第三版に整合した規格を発行することが、1年半前の会議で確認されており、現在もその目標に変わりはない。セクレタリーからは、2008年2月に改定されない個別規格は廃止すべきであるとの考えが示された。しかし多くの規格を抱えているグループもあることから、2008年2月までに第三版に整合した個別規格の CDV に達しない場合、廃止せざるを得ないということが確認された。現在 26 の規格が遅れている。CAG では、各 MT の主査を支援してこのことの決議がされている。また 62D ftp site に drafting のためのテンプレートおよびそのガイド(今年5月に作成)を載せ支援を強化している。</p> <p>ISO との協力：現在 TC121 とのジョイントグループは次のようなものがあり、大変うまく運営されている。</p> <p>JWG 5 (Pulse oximeters) JWG 6 (Respiratory gas monitors) JWG 7 (Non-invasive blood pressure) JWG 8 (Clinical Thermometers) JWG 9 (Patient Warmers)</p> <p>新たに TC121/SC2 とのジョイントでネブライザーの個別規格を進めることになった。ISO TC 172/SC 7 とジョイントで Lens Removal and Vitrectomy Devices の規格化を進めることになった。</p> <p>IEC TC76 から 62D に high intensity light sources used for cosmetic treatment of the skin and hair を検討する NWIP が送られてきた。範囲が広すぎるので、equipment intended for cosmetic treatments に限定、および医用電気機器を含まないように要請した。Cosmetic に一部に medical treatment もあるが、diagnostic and therapeutic がどうなっているかが問題、今後、状況を見ていく。</p> <p>第三版の Amendment：62A セクレタリーのサイドボトム氏から FDIS の過程で多くのコメントが寄せられている。早速メンテナンスを開始して、2010年までに Amendment 1 を発行したいとの方向が示された。まだ第三版が広く理解されていない状況であり、個別規格のメンテナンスも、進んでいない状況である。第三版の Amendment の検討はもっと先に延ばすべきである。次回会議で検討する。</p>				

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

(社)電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号：158-3 / TC80-

提出日：2006年9月4日

(報告者記載)整理番号：H18TC80

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：矢内 崇雅 報告書作成者氏名：矢内 崇雅 (会社名)沖電気工業(株)

出席会議名(半角) TC80/WG14	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC80(半角)
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	基地局 / 航路支援
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
		<input checked="" type="checkbox"/> 単独開催 <input type="checkbox"/> 同時開催		
開催期日	2006年8月21日 ~ 2006年8月25日			
開催場所	(国名)ロシア	(都市名)セントピーターズバーグ		
ファシリテーター	Alan Stewart	幹事国 UK		
参加国及び 参加人数	8ヶ国、主な国名 日本、UK、米国、ドイツ、スウェーデン、カナダ、ロシア、IALA、参加人数(16)			
日本人 出席者名(会社名)	[:補放線者…(例): 電子太郎(JEITA電子)] 古山 賢二(日本無線)、 矢内 崇雅(沖電気工業)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
<p>1. 背景 : AIS の基本的な要件は船舶 船舶 船舶 陸上局間でデータ通信が出来ることと規定されており、SOLAS 対象船舶に搭載される AIS 装置は既に IEC 規格として制定された。一方 AIS としての分類に陸上局及び航路支援装置があり、IEC 規格を作成することで AIS システムとしての整合の取れた運用が望めることになる。</p> <p>2. 目的 : 第 11 回ドイツ コブレンツ会議にて検討された IEC62320-2 AIS AtoN Station (航路支援用 AIS 装置) CDV 案の機能要件の精緻化とテスト要件の作成を行い、IEC 事務局からの CDV 回章時期要求に間に合わせるためのドキュメント開発を目的とする。</p> <p>3. 成果・問題点:</p> <p>3.1 今回の作業にて、数項目を除いて全体的な機能・性能要件に関する検討作業が完了した。残された項目は IALA 及び ITU-R WP8B との協議を行う必要からその課題内容を Liaison Note を作成し、WG として確認した。</p> <p>3.2 今回の作業状況ではテスト要件の検討・審議まで進むことが出来なかったが、次回までの作業として、機能・性能要件に対応したテスト要件の必要性の有無、既にドキュメント化されているテスト要件の確認・修正及び新規の作成等の分類を実施し、その項目毎の担当委員の設定を行った。</p> <p>3.3 本 AIS AtoN Station (航路支援用 AIS) の位置通報のスロットは、船舶搭載等の AIS 装置では事前予約をして位置通報メッセージを送信するが、本装置はその事前予約の通報をせず、自らの設定条件にて送信する方式とした。</p> <p>3.4 送信方式として、2つの周波数を用いて、交互に規定された間隔で送信、2つの周波数をペアとして規定された間隔で送信の2種類を設定できる機能要件を採用した。</p> <p>3.5 基地局装置から船舶装置に対して送信周波数変更、送信間隔の変更等のコマンド指令には応答しないとした。</p> <p>3.6 キャリアセンスにて通報する CSTDMA 機能に関して、本装置での運用方法が異なるため通報タイミングを設定する機能要件を IEC62287 での規定を変更することにした。</p> <p>4. 今後の会合予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 14 回：2006 年 10 月 16 日～20 日 カナダ オタワ・・ IEC62320-2 の CDV 案の作成と AIS-SART 要件の検討及び WG14 としての対応の方向について ・第 15 回：2007 年 4 月又は 5 月 オーストラリア キャンベラ・・ IEC62320-2 AtoN AIS Resolution 会議 				

- [注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

(社)電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号 158-3/TC80-

提出日: 2006年9月12日

(報告者記載)整理番号: H18TC80

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 矢内 崇雅 報告書作成者氏名: 田北 順二 (会社名)日本無線株式会社

出席会議名(半角) TC80/WG13	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC80(半角)
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	航海関連情報表示
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
		<input checked="" type="checkbox"/> 単独開催 <input type="checkbox"/> 同時開催		
開催期日	2006年8月28日 ~ 2006年8月31日			
開催場所	(国名)米国	(都市名)アーリントン		
チャirman/コパナ	Joe Ryan	幹事国 英国		
参加国及び 参加人数	5ヶ国、主な国名 米国、英国、ドイツ、フランス、日本、参加人数(11)			
日本人 出席者名(会社名)	[:補放線者…(例): 電子太郎(JEITA 電子)] 田北 順二(日本無線)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
1. 背景 船舶に搭載する航海関連情報表示機器に関する規格(IEC 62288)作成ワーキンググループである。				
2. 目的 2008年7月1日からブリッジに搭載するレーダ、ECDIS、Conning Display等の全ての航海情報表示機器について適用されるIMO性能基準MSC.191(79)に対応したIEC規格IEC 62288のドラフトがWG13にて審議されており、CDV発行に向けて最後ドラフティング会議が開催された。				
3. 成果 1) IEC 62288 ドラフトについて各国及び関係WGより提出された約200件以上のコメントについて審議し、最新ドラフトIEC 62288 Ed1 CD V15.00を作成した。 2) TC80/WG1(Radar)からのコメントにより、表示器に表示する航海情報の色の規定、試験方法が見直され、詳細な色の規定や試験は、チャートを表示する場合に限定されることになった。また通常、チャートを表示しないレーダ等は、シンボルについて従来使用していた視認性を重視した色が使用できることになった。 3) Annex Aのシンボルテーブルに修正、追加が加えられた。 4) IEC 62288 CDV(投票用ドラフト)は9月中旬に各国へ回章されることになった。 (投票期間は5か月) 5) 各国からのCDVコメントを審議するレゾリューション会議が2007年4月頃開催される予定。 6) 最終的なIEC 62288 Ed1発行は、2007年9月頃になる模様。				

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出して下さい。

3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(社)電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号：158-3/TC80-

提出日：2006年9月29日

(報告者記載)整理番号：H18TC80

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：矢内 崇雅 報告書作成者氏名：小松 裕昭 (会社名)古野電気株式会社

出席会議名(半角) TC80/WG1	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC80(半角)
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
		<input checked="" type="checkbox"/> 単独開催 <input type="checkbox"/> 同時開催		
開 催 期 日	2006年9月19日 ~ 2006年9月21日			
開 催 場 所	(国名)ドイツ	(都市名)ハンブルグ		
チアマン/コパナ	Mr. Hans-Karl von Arnim/Mr. David Hannah	幹事国 英国		
参 加 国 及 び 参 加 人 数	8ヶ国、主な国名 英国、ドイツ、ノルウェー、スウェーデン、米国、日本、参加人数(15)			
日 本 人 出席者名(会社名)	[:補加対象者…(例): 電子太郎(JEITA 電子)] 小松裕昭(古野電気株式会社) 田北順二(日本無線株式会社)			
<p>議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)</p> <p>1. 背景：2008年7月1日以後 SOLAS 条約船に搭載されるレーダ装置に適用される IMO 性能基準修正決議 MSC.192(79)が2004年 MSC 79 で採択され、型式承認試験の技術規格作成の必要性が発生した。</p> <p>2. 目的：型式承認試験に必要な技術要件及び要求される試験結果を定めるレーダ装置についての国際規格 IEC 62388 の草案を密接な関係にある航海関係表示規格 IEC 62288 と整合をとりながら MSC.192 施行日に間に合わせて作成。</p> <p>3. 成果・問題点</p> <p>(1)前回第 50 回 BSH 会合から引き続きベンチマーク物標によるクラッタ存在下での探知性能試験に代わる暫定試験方法を検討した。各種条件(雨量 0、6、16 mm/h 及び海況 0、1、2、3、4、5)での 0.2 及び 0.7 nm にあるレーダクロスセクション(RCS) Xバンドの場合 1、5、10、50 及び Sバンドの場合 0.1、0.5、1、5 平方メートルの物標各々についての探知可能性を百分率で推定し、“見える”、“見辛い”、“場所による”及び“見えない”の4段階に分け、4回以上の環境の異なる海上実験を行って可否を判定する方法を考案した。</p> <p>(2)航海関係表示規格 IEC 62288 との整合を図るため、WG13 のリーダー Mr. Joe Ryan の出席を得て、レーダに係る次の表示の変更・修正を行い適正化を図った：海図重畳表示の場合レーダの航海ツール表示色が IHO S52 で規制されるのを避け自由度を持たせる。レーダ映像や海図情報の灰色モノクローム表示が認められた。レーダ映像と海図重畳表示の場合レーダ映像が海図映像をマスクすることが許された。レーダ自尾物標と AIS 通航物標のアソシエーション表示用に新たなシンボルが追加された。海図表示機能を持つレーダの場合表示すべき地勢等要素を IMO 基準と IHO 規格を考慮しながら明確化する。</p> <p>(3)ベンチマーク物標発生シミュレータ開発には更に 500,000 ユーロ程度の資金が必要で、この資金調達のために NAV 52 で IEC 62388 作成進捗を説明すると共に、IMO 加盟国に資金援助を要請するステートメントをノルウェーが MSC 82 に提出することにし、資金調達の実現後シミュレータが利用できるようになる迄(約 4 年)暫定試験を行うことへの了解を MSC 82 に要請する。</p> <p>(4)国際規格発行から MSC.192(79)施行日迄十分な開発・型式承認試験期間がとれないこと、IMO 性能基準を完全には満足していないと言うことで、規格を作成する上で問題があったと言える。</p> <p>4. 今後の予定：WG1 でのメールによるドラフト最終案を再度検討後、10月に TC80 事務局を通して IEC 中央事務局に送付し、11月 CDV が各国の IEC 国内委員会に回章され、2007年4月 CDV に対するコメントのリゾレーション会議を経て国際規格として発行されるのは 2007年9月乃至 10月となる予定。</p>				

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

(社)電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号：158-3/TC80-

提出日：2006年10月6日

(報告者記載)整理番号：H18TC80

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：矢内 崇雅 報告書作成者氏名：田北 順二 (会社名)日本無線株式会社

出席会議名(半角) TC80/WG6	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC80(半角)
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
		<input checked="" type="checkbox"/> 単独開催 <input type="checkbox"/> 同時開催		
開催期日	2006年10月3日 ~ 2006年10月5日			
開催場所	(国名)英国	(都市名)ロンドン		
チャirman/エバナ	Stefan Steiner	幹事国 スウェーデン		
参加国及び 参加人数	5ヶ国、主な国名 米国、英国、ノルウェー、スウェーデン、日本、参加人数(9)			
日 本 人 出席者名(会社名)	[:補放線者…(例): 電子太郎(JEITA 電子)] 田北 順二(日本無線)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
<p>1. 背景 船舶搭載機器のデジタルインタフェースに関する規格作成委員会である。</p> <p>2. 目的 船用機器間のデジタルインタフェースを検討、審議する。特に今年5月投票が締め切られた IEC 61162-1 Ed3 の F D I S 案を作成する。また、WG 1 4 より緊急に審議および P A S 発行依頼のあった A I S 基地局用のインタフェースについて審議する。</p> <p>3. 成果 1) IEC 61162-1 Ed3 の F D I S 案を作成した。概要は次のとおり。 現在の IEC 61162-1 CDV 内容の問題点の修正 現在の IEC 61162-1 Ed3 CDV は、IEC 61162-1 に3つの PAS 規格、PAS100(AIS 関係)、PAS101 (NMEA の改訂対応)、PAS102 (VDR 用センテンス)の内容を現在の IEC 61162-1 Ed2 に追加したのみであり、次の重要な追加すべきセンテンスが欠落しているため、追加した。 ・ THS : True Heading and Status ・ DDC : Display Dimming Control ・ NRM : NAVTEX receiver mask ・ NRX : NAVTEX received message ・ ROR : Rudder Order ・ UID : User Identification Code Transmission F D I S で追加した VDR 用センテンスの内容について、見直しを行い、特に DOR, FIR, WAT については、使用方法のガイダンスが必要であるため、Annex F(Informative)を追加することにした。 WG14 から要請のあった A I S 基地局インタフェースについては、内容を審議し、WG6 から WG14 に対して WG6 の審議結果のステートメントを提出することになった。(WG14 は、10月の会議で、再度内容を審議する。) GYRO や THD (船首方位伝達装置)の ISO 規格に関して、船首方位データの出力レートがレーダ装置では、少なくとも 50Hz が必要であるのに、現在の ISO 規格が一部整合していない点について説明を求めるレターを IEC TC80 Secretary の KIm Fisher が ISO TC8 SC6 に提出することになった。</p> <p>2) IEC 61162-2 については、特に審議事項なし。</p> <p>3) IEC 61162-3 については NMEA で内容の見直しが続いており、新たな入力文書の提出がなく、次回の来年2月の WG6 会議までに、CDV 案が提出されることになった。従って IEC 61162-3 の CDV 発行は、来年に延期となった。</p> <p>4) IEC 61162-4 については、特に審議事項なし。</p> <p>5) レーダと VDR のイーサネットを使用してレーダ画像ファイルを転送する方式のインタフェースについて審議し、関連する WG1 (レーダ) WG11 (VDR) に審議結果を報告することになった。この方式で画像以外のデータを転送できることとし、IEC 61162 シリーズに加えることには、IEC 61162-4 との関係から現時点では慎重にすべきとの意見があり、IEC 61162 に関連する記述の一部を修正した。</p> <p>6) 次回の WG6 会議は 来年2月の第2週(2/6~2/8)に欧州で開催することになった。(場所は未定) AIS 基地局用インタフェース、ガリレオ受信機用インタフェースや IEC 61162-3 等を審議する予定。</p>				

(社)電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号：158-3 / TC93-

提出日：2006年10月10日

(報告者記載)整理番号：H18TC93

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 齋藤茂美 報告書作成者氏名： 齋藤茂美 (会社名)ソニー

出席会議名(半角)	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC93(半角)
TC93	<input checked="" type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他	名称 (日本語)	デザインオートメーション
WG1,WG2,WG3	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
WG5,WG6,WG7	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
JWG11	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
開催期日	2006年9月18日 ~ 2006年9月22日			
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)ベルリン		
チアノ/エパナ	唐津治夢	幹事国 米国		
参加国及び 参加人数	2ヶ国、主な国名 日本、米国、参加人数(11)			
日本人 出席者名(会社名)	[:補放対象者…(例): 電子太郎(JEITA電子)] 唐津治夢(SRIインターナショナル)、 神戸尚志(近畿大)、 高橋満(日立/PARTSWAY)、 浜口加寿美(松下)、 齋藤茂美(ソニー)、 柴田明一(JPCA)			
<p>議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改訂しながら最大28行まで記入できます。)</p> <p><背景>電子機器・部品の、設計や試験の仕様記述言語、機能や環境データの流通方式、等の標準化ニーズが大。</p> <p><目的>TC93が先行実施しているIEC / IEEEダブルロゴ標準手順の定着迅速化、Pメンバー国参加増、エキスパート確保、活動活性化、等の課題認識を踏まえつつ、上記標準に対する日本のニーズ織入を図る。</p> <p><成果>TC93国内委員会はJEITAやJPCA等の関連委員会との緊密な連携をもって、種々展開しており、ベルリン会議においてもこれらの活動実績と業務実態を踏まえた標準化案件の絞り込みや要件整理を進め、今後の方向を明らかにするなど会議を主導した。</p> <ul style="list-style-type: none"> WG1: 言語間のInteroperabilityの調査を以下のポイントで行うことがNWIPとして提案された。 <ul style="list-style-type: none"> 比較ポイント: 数値、名称、階層、変換子(morphisms, or transformation) 対象言語: SystemVerilog, SystemC, VHDL, Esterel, B, e-language, Rosetta WG2: IEEEとのダブルロゴのメンテナンスをIECトリガ(Verilog)、IEEEトリガ(VHDL)の2ケースで進めることを決定。新規ダブルロゴ標準化2候補を選定した。SOC(SPIRIT)、ESL(Estel, Rosetta)、低消費電力の3領域での要注目標準化動向を確認した。言語辞彙を含むTest標準化案件につき、WG7と協力することを決めた。 WG3: XMLベースの製品属性情報交換方式PDX(Product Data eXchange)をDTD(v1.0)からXML schema(v2.0)にレベルアップする米国家案に対して初期段階からの実用化検証が重要との日本側見解を提示し、協力対応を決めた。 WG5: TR62107-1,-2(Technology Roadmaps)やTR61908(Conformance tests Guideline)の保守の取組みを決めた。 WG6: 環境データを含む電子カタログの流通方式の在り方やIPC1752の適用性検証の進め方などについて継続審議する。 WG7: ダブルロゴ標準化3候補を選定し内2案件をWG2と共同で推進することを決定。IEEE・SCC20でのATML(Automatic Test Markup Language)案作成状況が報告された。本年中に原案凍結を目指す。SMBで廃案とされたダブルロゴ案件STD(IEEE1641・Signal and Test Definition)について早期の再登録手続きを進めるよう要請中。 JWG11: IEC61182-10(CAD to CAD transfer)の実質審議をTC91に委ねることを確認した。(協力団体: JPCA) <p><課題>Pメンバー国参加増が最重要課題。2007年会議はTC93への参画が期待される韓国での開催を軸に検討する。</p>				

- [注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

(社)電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号： 158-3 / TC100 / TA1-

提出日： 2006 年 10 月 10 日

(報告者記載) 整理番号： 158-3 / TC100 / TA1-

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 伊賀弘幸 報告書作成者氏名： 伊賀弘幸 (会社名)株式会社 東芝

出席会議名(半角)	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA1 (半角)
PJ会議(62487)	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input checked="" type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	放送用エンドユーザ機器
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
開催期日	2006 年 9 月 27 日 ~ 2006 年 9 月 28 日			
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)ベルリン		
チャイルド/エバナ	Mr. Jon Fairhurst	幹事国 日本		
参加国及び 参加人数	7ヶ国、国名 JP, US, UK, AU, NL, KR, CN 参加人数 (30)			
日本人 出席者名(会社名)	[:補放者者…(例): 電子太郎(JEITA 電子)] 伊賀弘幸(東芝)、安田浩(東京大学)、平川秀治(東芝)、稲垣一彦(ソニー)、岩崎広治(シャープ)、打土井正孝(パイオニア)、 安藤亨(松下電産)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
<p>TVの平均消費電力測定法PJ。</p> <p>Low APL ヒストグラムと Medium APL ヒストグラムに従って編集された複数の合成画像で消費電力を測定したところ、画像による依存性が高いことが分かり、自然画像を採用することになった。High APL を代表する画像としては、Web コンテンツと決まった。具体的なコンテンツは未定。IEC Web ページは有力候補。</p> <p>既存規格の 62087 のアmendあるいはレビジョンの方向で検討を進めている。既存規格(62087 など)とのハーモナイズ作業を始めた。今回は特に JEITA 提案のハーモナイズが認められた。</p> <p>Working Draft は PL が 10 月中に作り、メールベースで検討を進めて、1 月の CES 頃に次回の face to face 会議を行って、Working Document を固める予定。</p> <p>当初の予定は、2006/9 Working Draft 完、2007/1 Committee Draft 完、2007/9 規格化というとてもハードな日程であったが、1 月に Working Document ができれば、米国側の要求に沿っているようであり、特に米国側からの遅れに対する反発はなかった。</p>				

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11 ((三井住友海上別館ビル) Tel: 03-3518-6435 Fax: 03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

(社)電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号: 158-3 / TC100 / TA2-

提出日: 2006年10月3日

(報告者記載)整理番号: H18TC100TA2

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 杉浦 博明 報告書作成者氏名: 杉浦 博明 (会社名)三菱電機

出席会議名(半角)	区 分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC 100/TA2 (半角)
TC100/TA2 会議	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input checked="" type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		
61966-2-5 会議	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input checked="" type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他	名 称	マルチメディアシステム・機器の
61966-5 会議	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input checked="" type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他	(日本語)	カラーマネジメント
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催	
開催期日	2006年9月27日 ~ 2006年9月28日		
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)ベルリン	
チャマン/エパナ	池田 宏明(日本)	幹事国 米国	
参加国及び 参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、米国、英国、中国、参加人数(10)		
日本人 出席者名(会社名)	[:補加対象者...(例): 電子太郎(JEITA 電子)] 池田 宏明(千葉大)、加藤 直哉(ソニー)、清水 雅芳(富士通研究所)、杉浦 博明(三菱電機)		
<p>議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大26行まで記入できます。)</p> <p>(1) PT 61966-2-5 meeting (9/27): 前回の virtual meeting(7/11-7/15)で未解決であった、米国エキスパートからの3つの質問に答え、opRGB規格化の位置付けを確認した。現在、CDを回付中(コメント締め切り11/10)。2007年3月を目標にCDVを発行することになった。</p> <p>(2) MT 61966-5 meeting (9/28): IEC 61966-5(PDP色彩特性測定方法)の改定について議論した。SCOPEを小修正することで、合意した。Annex Aについては、削除する方向で合意した。会議前は、紛糾が懸念されたが、日本にとっては、問題のない結論となった。</p> <p>(3) TC 100/TA2 meeting (9/28): IEC 61966-2-4 xvYCC(動画用拡張色空間)は、本年1月に発行されたが、その後、誤りが、見つかった。正誤表を発行するというDCに対して各国からの異論はなかった。規格を早期に活用したいという日本の意見が認められ、手続きの簡単な正誤表を発行することが、認められた。 IEC 61966-2-1 sRGBの有効期限が、2008年から2012年に延長された。早期に改定しようとしている米国の意見を退けた。 IEC 61966-8(カラスキャナー)の有効期限が2006年から2009年に延長された。</p> <p>(4) TA2 meetingでの結論は、全て、TC 100 Plenary meetingで承認された。</p> <p>いつものことながら、今回の会議もカラーマネジメント技術の標準化分野で主導権を握りたい米国(米国代表全員ではなく特定の代表1名)と意見が対立したが、米国代表の他のメンバーおよび英国代表の協力もあり、ほぼ、日本の意向に沿った結論となった。</p>			

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局へ提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

提出日: 2006年10月10日

(報告者記載)整理番号: H18TC100TA4

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 蔭山 恵 報告書作成者氏名: 蔭山 恵 (会社名)松下電器産業株式会社

会議名(半角)	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)				
MT 61937-1 圧縮デジタルオーディオ・インターフェース(一般)	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG	<input checked="" type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他	TC100/TA4 (半角)
MT 61937-2 圧縮デジタルオーディオ・インターフェース(データタイプ)	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG	<input checked="" type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他	名称 (日本語) デジタルシステムインタフェース&プロトコル
TC100/TA4 デジタルシステムインタフェース&プロトコル	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input checked="" type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他	
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催
開催期日	2006年9月28日 ~ 2006年9月29日						
開催場所	(国名)ドイツ			(都市名)ベルリン			
ファシリテーター	Edward Barrett			幹事国 韓国			
参加国及び参加人数	MT 61937-1: 5ヶ国、主な国名 米国、英国、日本、韓国、中国、参加人数(13) MT 61937-2: 5ヶ国、主な国名 米国、英国、ドイツ、日本、トルコ、参加人数(12) TC100/TA4: 5ヶ国、主な国名 米国、英国、中国、韓国、日本、参加人数(28)						
日本人出席者名(会社名)	[:補放線者...(例): 電子太郎(JEITA 電子)] 蔭山 恵(松下)、江島 直樹(松下)、市村 元(ソニー)、由雄 淳一(パイオニア)、古川 雅通(ケンウッド)、川西末広(富士通)						
議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)							
<p>1. MT 61937-1 圧縮デジタルオーディオ・インターフェース(一般)</p> <p>背景・目的: 日本、米国から改定提案中の規格審議を行い、早期に次ステージへ移行できるよう促進する。日本が主導的に事業を推進しているAV機器の重要なインターフェースとして使用が予定されている。早期規格改定の推進は日本国にとって非常に重要である。61937-1は61937シリーズ(圧縮デジタルオーディオ・インターフェース)のGENERALが記述された基幹規格であり現在審査中の100/1101/CDVと最近提案された61937-3(E-AC3フォーマット)、61937-9(MATフォーマット)に対してシリーズ規格としての一貫性を確保する必要があるためジョイント会議を開催し、MT61937-1のプロジェクトリーダーとして参加した。</p> <p>成果: MT61937-3とMT61937-9は新たな伝送用周波数として、128kHz、705.6kHzの追加をIEC 60958-3に要求している。61937-1はIEC 60958-3にて定義される伝送用周波数用ビットフィールドを参照しており、将来のIEC 60958-3改訂は61937-1にも影響を与える可能性が懸念される。</p> <p>本会議において、伝送用周波数の追加のために、IEC 60958-3におけるChannel Status Bit 30、31を従来からのChannel Status Bits 24-27に加えて、この用途に使用する案が示された。これにより残り5つであったリザーブエリアが最大20に増強でき、今回の新提案を含めても十分に余裕ができる。</p> <p>61937-1が参照しているのはEd1.0においてはChannel Status Bits 24-27であったが、100/1101/CDV起案時にClock accuracyとともにChannel Status Bits 24-31全体を参照するように記述を変更したことを提示、上記の変更にも対応可能であることを出席者に示し了解を得た。</p> <p>今後の問題点: 現時点では特に無い。</p> <p>次回開催: MT 61937-1,2: 2007年5月(ウィーン)CDVコメント対応など必要に応じて開催する。</p>							

2. MT 61937-2 圧縮デジタルオーディオ・インターフェース(データタイプ)

背景・目的:

日本から改定提案中の規格審議を行い、早期に次ステージへ移行できるよう促進する。日本が主導的に事業を推進しているAV機器の重要なインターフェースとして使用が予定されている。早期規格改定の推進は日本国にとって非常に重要である。61937-2 は61937 シリーズ(圧縮デジタルオーディオ・インターフェース)のデータタイプが記述された基幹規格であり最近提案された61937-3,(AC3 フォーマット), 61937-9 (MAT フォーマット)に対してシリーズ規格としての一貫性を確保する必要があるためジョイント会議を開催した。

成果:

基本課題であったデータタイプ残数不足の対策については、追加のビットを規定してデータタイプのフィールドを拡張するPL案でCDV文書を作成し回付中であるが、この内容についてレビューし基本的に問題ないことを確認した。

またこの改訂が最初に適用される61937-3,(AC3 フォーマット), 61937-9 (MAT フォーマット)に関しては、拡張されたフィールドのビットの記述がやや不明確であったため、表へ追記するとともに、運用明確化のための文章を追加することを提案し異議無く承認された。

今後、将来の規格追加改訂の際にも前例として示されることになり、一貫性を保つための指針として大きな意義があったものと思われる。

3. TC100/TA4 デジタルシステムインタフェース&プロトコル

背景・目的:

TA4には日本から改定提案中の規格案件が多数ある。これらはいずれも日本が主導的に事業を推進しているAV機器の重要なインターフェースとして使用が予定されている。円滑な規格改定審議の推進は日本国にとって非常に重要である。

成果:

MT 60958-1 (デジタルオーディオインタフェース)についてCD回付後の記述内容変更のため2CDが必要となり、このための日程変更要求が承認され、TC100からSMB(評議会)への上程が決定した。

改訂作業中であるMT 61937-1 (圧縮デジタルオーディオインタフェース:一般)、MT 61937-2 (同:データタイプ)の審議内容、進捗経過、今後の日程が報告され承認された。

UK提案であるMT 61883-8 (デジタルAVインタフェース:ITU-R BT.601 style Digital Video Data伝送)に日本提案(ライトコーデック)を盛り込むことが報告された。

その他の日本提案、他国提案プロジェクトの進捗と課題を確認し、対応を協議した。

着手から3年が経過してなお進捗が遅延しているUK提案のPT 62379(ATM伝送上のAV制御インタフェース)は多くのパート分けが行われたが、PT 62379-1,PT 62379-2を除き、規格開発リソース無しとしてキャンセルされた事が明確になった。

今後の問題点:

現時点では特に無し。

次回開催:

2007年10月 TC100プレナリー会議に合わせてフランス(Strasbourg)にて開催予定。

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WGがTC/SC/TAと同時に開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(TSC-06様式 2006.3)

(社)電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号： 158-3 / TC100/TA5-

提出日：2006年10月10日

(報告者記載)整理番号：H18TC100TA5

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 濱田 靖司 報告書作成者氏名： 松本 檀 (会社名)日本電気株式会社

出席会議名(半角) TC100/TA5	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA5 (半角)
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input checked="" type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	ケーブルネットワーク
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
開催期日	2006年9月25日 ~ 2006年9月29日			
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)ベルリン		
チア/ソバナ	Dr. Lauri Halme (フィンランド)	幹事国 日本		
参加国及び 参加人数	9ヶ国、主な国名独、伊、英、日、米、中、フィンランド他、参加人数(21)			
日 本 人 出席者名(会社名)	[:補加者... (例): 電子太郎(JEITA電子)] 松本 檀(NEC)、 笹川 潔(日立製作所)、 松本 卓三(古河電工)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
1. MT 60728-7(Home Network Interface)会合結果 IEC 60728 Part-1 Section 7(Home Network Interface)についてはホームネットワークの概念と定義が日本と大きく異なっている。このため章全体を日本に適用不可としてコメント提案した件につき、審議が行われた。日本提案に対し第7章のタイトルをHome Network Interface for Cable Network に変えると言う提案も出たが、本質問題の解決にならず、議論が続けられた。結局、国際協調の観点から日本として第7章を全否定する提案を取り下げ、代わりに Annex J に日本の変更箇所を追加する Counter Proposal を提案し、了解された。一ヶ月以内に回答を準備する事とした。				
2. TA5 会合結果 昨年サンノゼ会合の簡単な説明の後、議長要請により日本新提案文書の説明を行った。松本(檀)がFTTH System を、松本(卓)が光システム測定法について紹介した。その後、本文書の内容及び取り扱 いについて議論が開始された。ドイツからのコメントはPart-6 PL の Dr. Schwarzenau がまとめたもので、新たに Project Team を 60728-2 として起こし、既存の Part-6 に日本文書 100/1121/NP、100/1120/NP を包含する提案であった。これに対し、現行ドキュメント体系と日本提案内容から Mr. Mussino (伊) が Part-6 への包含に反対し、別 Part を起こすべきとの反論があった。UK もこれをサポートしたため、New Project (PT-60728-13) の設立が合意された。但し各 NC レベルでの承認が取れてから正式発行となるが、日伊英 NC が賛成しているため設立はほぼ確定している。NC 承認は10月6日に完了すると Mr. Sorri から説明があった。これにて我々の今回の主要ミッションは達成されたといえる。New Project 開始に当たり、国際標準としての文書化に取り組むことになる。国内関係機関、CENELEC 等と連携を取りながら進めて行く。続いて松本(檀)よりデジタルTVとIPTVに関する日本の現状についてプレゼンテーションを行った。FTTHを含むケーブルシステムの現状と将来の TA5 標準化方向を考える上で、メンバーにとって有益だったと思われる。後日事務局より会合資料としてメンバーに通知されることとなった。(IEC IPTV Berlin 2006.pdf)				
3. ホームネットワーク関連 Home Network をパート1に追加することも討議されたが、Mr.Mussino が新たに Part-8 をホームネットワーク用として起こす提案を準備することとなった。Mr.Halme からホームネットワークは大変に注目されているアイテムであり、ISO/IEC JTC1 や TC100/TA9 が扱っている報告があった。今後 TA9 との協力が必要となる。				

- [注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出して下さい。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

提出日：2006年 10月 10日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 向井幹雄委員 報告書作成者氏名： 平川 秀治 (会社名) (株)東芝

会議名(半角)	区 分	組織番 (TC/SC/TA)	TC100(半角)
TC100 Plenary	TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他	名 称 (日本語)	AVマルチメディアシステムおよび機器
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		
開催期日	2006年9月29日 ~ 200 年 月 日		
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)ベルリン	
チャイマン/コパナ	Mark Hyman (USA)	幹事国 JP NC	
参加国及び 参加人数	14ヶ国、主な国名 日本、米国、ドイツ、中国、韓国、UK、参加人数(70名)		
日本人 出席者名(会社名)	[:補加対象者...(例): 電子太郎(JEITA電子)] 安田浩(東大 TC100 国内委員長)、平川秀治(東芝 報告者)、南典政(松下電産)、江崎正(ソニー)、古川隆道(ケウツ) 他23名 (H18TC100)		
議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)			
<p>今回は、IEC 創立 100 周年記念大会ということもあり、Pメンバーのトルコは 2003 年以後の TC100 総会へ参加、Oメンバーではクロアチアと南アフリカが初参加であった。反対に、いつも参加しているデンマークは、同時開催の他の会議と重なったため欠席となった。その他、TC100 への参加を働きかけているインドネシアが参加した。そのた、オランダが幹事国であった当時のアシスタントセクレタリー、Wim Honig 氏にも久しぶりにお会いできた。</p> <p>今回の TC100 総会での課題とその検討結果は下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none">1) DLNA Forum、ECHONET Consortium、RDS Forum との Category D リエゾンでは TC100 レベルでは承認され、QP 提出が提出される。また、ITU-T FG IPTV とはリエゾン関係を確立するための文書を送付する。2) ホームネットワーク関連での TC100 のポジションを明確にし、参加国の意見を求めた。AGS、AGM でも主要なメンバーには紹介済みであったことから、特に問題なく確認された。3) レジデンシャルホームゲートウェイの NWIP に関連して JTC1 SC 25 国際幹事との意見交換では、毎回の様に使われる PPT を使って SC25 の説明があり、その最後に、この分野は SC25 との連携が必要であるとの意見が表明された。TC100 議長から、レジデンシャルゲートウェイに関する提案は、事前の文書提出が無かったため、直ぐには議論が出来ないとした上で、AGM での JTC1 議長から「JTC1 と TC100、SC25 と TA9、WG1 と PJ が重層構造で情報交換を行う」という提案があったことから、その方向で JTC1 と TC100 でどの様なリエゾン組織を作るべきかを検討することになった。4) TA5 Scope の軽微な修正が提案され、承認された。5) TA6 で立ち上げたデータベース型標準のデータエレメントに関するバリデーションチームが予定通り発足できたことが紹介された。6) TC100 議長が提案し、AGM、GMT からサポートされている「Stabilized Standard」の分類階級を SMB に QP として再度、提案することが承認された。7) Mark Hyman 議長の任期が 2007 年から 3 年間延長が SMB で承認されたことが報告された			
以上			

- [注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

(社)電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号： 158-3 / TC100-

提出日：2006年9月30日

(報告者記載) 整理番号：H18TC100

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 向井 幹雄 報告書作成者氏名： 小町 祐史 (会社名) 大阪工大

出席会議名(半角) TC100/AGS	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/AGS (半角)
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input checked="" type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	TC100 (AV マルチメディアシステムおよび 機器)/戦略諮問会議
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
		<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催		
開催期日	2006年9月26日 ~ 2009年9月29日			
開催場所	(国名) ドイツ		(都市名) ベルリン	
チャイム/コパナ	小町 祐史		幹事国 日本	
参加国及び 参加人数	3ヶ国 主な国名 北米(3), ヨーロッパ(4), アジアパシフィック(4), 議長(1), TC100 議長(1), IEC CO(1), セクレタリ(2), 提案者(2), ゲストおよびオブザーバ(22) 注: TC100/AGS への参加は、国ではなく、地域からの代表による。 、参加人数 (40)			
日本人 出席者名(会社名)	[:補放者者…(例): 電子太郎(JEITA 電子)] 小町祐史(大阪工大), 村上敬一(富士通), 平川秀治(東芝), 由成孝一(パイオニア), 向井幹雄(ソニー), 伊賀弘幸(東芝), 本田文雄(富士通), 南典政(松下), 稲垣一彦(ソニー), 松村秀一(富士通), 松下剛士(シャープ), 高田薫(JEITA), 鳥羽暉(東芝)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は 見かけは1行ですが 所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
TC100 のスコープ内の新技術に関して次の議論と決定を行った。				
1. PACT 報告対応				
(1) PACT smart home : policy statement を承認し, smart home を TA9 の課題に位置付ける。				
2. 前回案件のフォロー				
(1) Digital broadcasting: One-Seg receive に関する NP の提案のため, T-DMB 関連規格との調整の場の必要性が指摘され, AGM で議論することにした。				
(2) Digital Cinema : 本件に関する TC100 戦略が提示され, 承認された。その実行のため, TC36 へのリエゾン代表を指名することを AGM に求めることにした。				
(3) Liaison report on MPEG activities : 引き続き MPEG 関連活動のリエゾン報告を Grant さんをお願いする。				
(4) Multimedia quality - Multichannel audio surrounding and loudness data : 本件に関する標準化課題が整理され, NP の提案が報告された。				
(5) Multimedia quality - Vocabulary and reference model for standardizing multimedia quality: 用語定義と参照モデルとを明確にする必要があることが強調され, その議論を開始するために NP 提案を由雄さんをお願いした。				
(6) Domain management for digital broadcasting : 前回コメントのあった既存技術との関連が説明された。本件の詳細については, 今後 TA8 において検討することにした。				
3. 新規案件				
(1) China home network : 中国の home network の活動が示され, TA9 への中国の参加要望が明らかにされた。				
(2) TV recording and STB : guideline of HD recording link の議論を開始するため, Fast-track 手続きを使うのではなく, NP の提出を行うことを確認した。				
4. 関連活動の報告				
(1) IPTV : TC100 の position paper を ITU-T Focus Group に送ることを AGM に要求することにした。				
(2) SNS : TC100 としての SNS の標準化課題をさらに明確にすることが報告された。				

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 向井 幹雄 報告書作成者氏名: 稲永 潔文 (会社名)ソニー株式会社

出席会議名(半角)	区 分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100(半角)
GMT Plenary	<input checked="" type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他	名 称 (日本語)	マルチメディアシステム及び機器 /総合メンテナンス会議
	<input checked="" type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		
	<input checked="" type="checkbox"/> 単独開催 <input type="checkbox"/> 同時開催		
開催期日	2006年9月26日 ~ 2006年9月29日		
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)ベルリン	
会場/会場	イギリス	幹事国 日本	
参加国及び 参加人数	4ヶ国、主な国名 ドイツ、イギリス、アメリカ、日本、参加人数(7)		
日本人 出席者名(会社名)	[:補加対象者...(例): 電子太郎(JEITA電子)] 稲永 潔文(ソニー(株))、 早川 純一(株)ケンウッド、 大賀 寿郎(芝浦工業大学)		
議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)			
GMT <MT60268-5,-7 関連報告>			
1. MT60268-5 Sound system equipment - Part 5: Loudspeakers PL: 稲永			
【背景】日本より提出した CD(IEC 100/1065/CD)に対し、反対意見無く賛成多数 100/1118/CC 発行。 ドイツより、交流信号を用いたスピーカの極性判定法が追加提案される。			
【目的】追加提案に関し、音響変換機器標準化 G で検討の結果、交流信号法は多くの問題点のある事が判明。 日本提案の、DC を印加した時の音圧の上昇で定義する従来からの方法が IEC 60268-2 で定義されている電気音響変換器の極性の定義に最も近く、かつ実用的であることを再確認。 この方法と同一結果が得られるものは認める方向で、デモを含め訴求。			
【成果】上記を様々な観点から訴えた結果、PL の示した結論は支持された。 今後のスケジュールは、CDV:2006/11, FDIS:2007/05, IS:2007/08 を予定。問題点は封じななし。			
2. MT60268-7 Sound system equipment - Part 7: Headphones and earphones PL: 大賀			
【背景】ドイツから MCR 発行。GMM より、内容的にも過去に日本が提案したものが案件に存在。 また欧州ヘッドホン音圧規制の牽制もあり、PL 国を日本(大賀氏へ)とのリクエストがあり、MT60268-7 発足。			
【目的】時代と共に変化する要求に対処した、メンテナンスを行う。			
【成果】EMC については、TC100 ではなく CISPRI で扱う。EMF については TC100 と TC108 で協議を行う。 絶縁誘導については、本 MT で可能なら取り込む方向で打診したが、Woodgate 氏はあくまで安全は TC108 マタ - という線を崩さなかった。しかしながら、TC100 から TC108 に提案し、先方が各論はやらないという可能性もあり、先手を打って、ATG 大平委員名で正式の意見書を発行予定。 2006年12月末までに1WD をまとめる、ということで了承された。			
【問題点】magnetic field の問題について Koening 氏から、コメントメールがあり、今後の議論に待つことになった。			

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出して下さい。

3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続を完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局: (社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11 ((三井住友海上別館ビル) Tel: 03-3518-6435 Fax: 03-3295-8727

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 向井 幹雄 報告書作成者氏名: 野谷 正明 (会社名) 松下電器

出席会議名(半角) TC100/TA6	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA6(半角)
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input checked="" type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
		<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催		
開催期日	2006年9月27日 ~ 2006年 月 日			
開催場所	(国名) ドイツ	(都市名) ベルリン		
チャイ/エバナ	野谷 正明	幹事国 日本		
参加国及び 参加人数	3ヶ国、主な国名 英国、中国、日本、参加人数(11)			
日本人 出席者名(会社名)	[補加者…(例): 電子太郎(JEITA電子)] 野谷正明(松下電器)、高野一博(ソニー)、向井幹雄(ソニー)、江崎正(ソニー)、木村友信(松下電器)、 香西俊範(ソニー)、由緒孝一(パイオニア)、松下剛士(シャープ)。			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改訂しながら最大28行まで記入できます。)				
<p>1. 全体の概要 TA6会合は3件の既存プロジェクトと3件の関連業務の進捗審議と、4件の完了報告、並びにタイムコードの改定提案に関する具体計画、メタデータのバリデーションチームの創設対応、データベース構築、MXF規格化構想などについて審議し、約2時間後に散会した。</p> <p>2. 現行プロジェクトの活動状況報告 下記の4件の活動状況報告があり、それぞれの進捗状況が確認・了承された。 ・PT 62071 Part-1, Part-2, Part-3 のD-7フォーマット改定提案は、全ての規格化作業を終了した。 ・PT 62141 D-16 フォーマットは、全ての規格化作業を終了した。 ・PT 62477 D-12 フォーマットは、CDV投票中で劇的に推移中である。 ・PT 62261 メタデータディクショナリーについては、規格化作業が Documentation, Procedure, Database に大別される。Documentationについては、すべて完了。Procedureについては、最後に残った Validation team のメンバーの不足対応策、また、Databaseについては、Validation team のメンバーに対する取り扱い講習会を実施すると共に第1回目のデータ構築の具体手順などが審議された。</p> <p>3. 新規技術の審議 ・60461 Time code 規格の改定について審議し、PLの選任、規格化日程、日米の協調体制などが話し合われた。 ・MXF file format 規格化については、対象規格の時期、範囲、規格レベル、日英の協力体制などが話し合われた。</p> <p>4. プログラムワーク 発行文書リストに基づき、ここ1年間のプロジェクトの活動が報告・確認された。</p> <p>5. メンテナンス メンテナンスを要する多くの規格について、従来どおり粛々として実施することが確認された。</p>				

- [注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出して下さい。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC活動推進委員会事務局: (社)電子情報技術産業協会 標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11((三井住友海上別館ビル) Tel: 03-3518-6435 Fax: 03-3295-8727

(社)電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号： 158-3/TC100-

提出日：2006年10月10日

(報告者記載)整理番号：H18TC100TA7

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 向井幹雄 報告書作成者氏名： 木村友信 (会社名)松下電器産業株式会社

出席会議名(半角)	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC100TA7(半角)
TA7	<input checked="" type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input checked="" type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	民生ストレージ標準化G
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
開催期日	2006年9月27日 ~ 2006年9月29日			
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)ベルリン		
ファシリトバナ	向井 幹雄(Acting Chair)	幹事国 日本		
参加国及び 参加人数	02ヶ国、主な国名 英国、日本、参加人数(9名)			
日本人 出席者名(会社名)	[:補加対象者…(例): 電子太郎(JEITA電子)] 向井幹雄(ソニー)、江崎(ソニー)、由雄(パイオニア)、野谷(松下)、高野(ソニー)、 香西(ソニー)、 杉崎(ソニー) 木村(松下)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
<p>1) 前回議事録(100-TA7_minutes_2005-09-29) は異議無く承認された。</p> <p>2) PT 61834-11 HDV 規格について香西 PLより進捗状況の報告があった。CDに対して198のコメントがあったが技術的な指摘ではなく編集上の意見であったためこれらを修正の上で次のCDVへ進めることが承認された。</p> <p>3) 規格の見直しについてはTSの推奨DC文書を回覧し意見を集約することになった。</p> <p>4) 将来の規格情報;木村委員よりJEITA暫定規格CPX-2601「メモリアーディオの音質表示」(The Designation of Audio Quality for Memory Audio)が将来の規格候補として紹介があった。意見として参照されているITU-R BS.1387規格を用いて低ビットレート時の評価に困難さが見受けられるがTechnical SpecificationとしてNP提案することが推奨された。</p> <p>5) 規格化の進捗状況 100/TA7(Berlin/TS5)文書が確認され承認された。</p> <p>6) リエゾン報告 向井 TSよりISO/IEC JTC 1/SC 23の活版報告がありTC100 TA6,TA7が連携するべき委員会として認識されていることが強調された。</p> <p>7) TA7のタイトルとスコープについて現状を確認しこれを保持することが承認された。</p> <p>8) 次回開催は2007年10月TC100総会に合わせてフランスで開催の予定。</p>				

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続を完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：向井 幹雄 報告書作成者氏名：鳥羽 彰 (会社名)株東芝

出席会議名(半角) TC100 TA9	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA9 (半角)
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input checked="" type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	AVマルチメディアシステムおよび機器/最終ユーザネットワークのための音声映像マルチメディアアプリケーション
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
		<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催		
開催期日	2006年9月27日 ~ 200 年 月 日			
開催場所	(国名)ドイツ		(都市名)ベルリン	
チャイルド/エバナ	Mr. BARRETT Edward(米 Sony)		幹事国 日本	
参加国及び 参加人数	7ヶ国、主な国名 中国、米国、日本、UK、ドイツ、韓国、オランダ、参加人数(25)			
日 本 人 出席者名(会社名)	[:補放対象者…(例): 電子太郎(JEITA 電子)] 南(松下)、鳥羽(東芝)、本多(富士通)、平川(東芝)、松村(富士通)、松下、村上(富士通)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
<p><背景>06/5 ヘルシンキ開催の AGM にて設立承認された Audio, video and multimedia applications for end-user network をスコープとする TA9 の最初の会議として位置づけられる。</p> <p><議事></p> <ul style="list-style-type: none">・SCOPE の確認 <p>エンドユーザネットワーク用 AV/マルチメディア/データアプリケーションを扱うことで原案通り合意された。</p> <ul style="list-style-type: none">・PT62457,PT62480 の紹介とエコーネットの概要説明(報告者) <p>エコーネット自体の言葉の知名度は上がっているもののエコーネットの理解はいまひとつであることがわかった。また MW アダプタの AV 系適用可否、IPR、バージョンと公開制限等質問の質問があつた。特に IPR は提案規格がコンソーシアム規格ベースのため、特許保有者が明確でないとの視点からなされたものであるが IEC ルールにのっとって RAND で行われると回答がなされた。</p> <ul style="list-style-type: none">・DLNA の説明(Mr.Stone Glen) <p>Fast track 提案されている内容の概要説明。パート 1/2 の CDV 投票が本年 12 月に終了。</p> <ul style="list-style-type: none">・中国 China Homenetwork Standard Activity and Proposal 内容説明(Mr.Wang Gang) <p>NP 投票中(06/12/15 頃)のものであり技術概要がプレゼンされた。SC25 からの指摘である SC25/WG1 進行中の RGW Pj 内容との重複の指摘回答として、NP 可決された後は、SC25 からの本 Pj への Exoert 登録、SC25 関連規格ドラフトの参照を行う等の回答が用意された。</p> <ul style="list-style-type: none">・SC25/WG1 とのリエゾン窓口全般は報告者がアサインされた。 <p><問題点>特になし。</p> <p><成果>ITU-T/SC25 WG1 等類似のスコープをもつ団体との並存が合意され今後の活動方針に対してコンセンサスが得られた。</p> <p>次回 07 年 仏 ストラスブール 10/23-27 予定。</p>				

- [注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出して下さい。
 3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
 4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
 5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局: (社)電子情報技術産業協会 標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11 ((三井住友海上別館ビル) Tel: 03-3518-6435 Fax: 03-3295-8727

(社)電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号: 158-3 / TC100-

提出日: 2006 年 10 月 8 日

(報告者記載) 整理番号: H18T100、

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 向井幹雄 報告書作成者氏名: 植村八潮 (会社名)(学)東京電機大学

出席会議名(半角) TC100/TA10	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA10(半角)
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input checked="" type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	マルチメディア電子出版及び電子 書籍
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
		<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催		
開催期日	2006 年 9 月 28 日 ~ 2006 年 9 月 28 日			
開催場所	(国名)ドイツ		(都市名)ベルリン	
会場/コバナ	植村八潮		幹事国 日本	
参加国及び 参加人数	5ヶ国、主な国名 日本、米国、英国、中国、フランス、参加人数(11)			
日本人 出席者名(会社名)	[:補加者... (例): 電子太郎(JEITA 電子)] 植村八潮(東京電機大学), 向井幹雄(ソニー), 小町祐史(大阪工業大学), 沢田裕司(シャープ), リポアル フロリアン(シャープ)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
<p>1. 全体の概要</p> <p>TA10 会議としては、2006 年 5 月ヘルシンキ AGM 会議における設立決定を受けた最初の会議である。PT62229 と PT62448 の進捗状況と検討に加え、新規プロジェクトの検討が主たる目的である。</p> <p>2. 現行プロジェクトの進捗状況報告</p> <p>2.1 PT62229 については、資料 100_TA10(Berlin_Uemura)04 に基づき、規格化を完了し、2006 年 7 月 24 日に国際標準として公布されたことが報告された。</p> <p>2.2 PT62448 の現状は 2006 年 9 月 29 日締め切りの CCDV にあり、現在、日本からのコメントが寄せられていることの報告があった。このコメントにおいて Annex B として追加が言及されていた XMDF について、資料に基づき詳細の紹介と携帯電話向け電子書籍(マンガ)のデモンストレーションが行われた。</p> <p>3. 新規プロジェクトの紹介</p> <p>3.1 Reader's format については 2005 年 9 月サンノゼ AGS 会議により NP 提案が求められ、2006 年 5 月ヘルシンキ AGS 会議で進捗報告が行われてきた。今回、NP 案について資料に基づき検討を行い、TA10 として沢田氏に NP の提出が求められた。</p> <p>3.2 電子書籍交換用ストレージメディアの配布ガイドラインについて資料に基づき検討が行われた。TA10 は近い将来の NP を期待することとした。</p> <p>3.3 AGS 会議で NP 提案が求められた Proofreading markup language についてコメントがあった。</p> <p>4. プログラムワーク</p> <p>資料に基づき、各プロジェクトの進捗が報告・確認された。</p> <p>5. メンテナンス</p> <p>現在、TA10 に関するメンテナンスはないことが確認された。</p> <p>6. リエゾン</p> <p>TA10 は小町氏を JTC 1/SC 34 の liaison representative に選出し、TC100 に JTC 1/SC 34 との Liaison Letter の送付を求めた。</p> <p>7. 次回: 2007 年 9 月フランスで開催することで了承された。</p>				

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

(社)電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号： 158-3 / TC100-

提出日：2006年10月5日

(報告者記載)整理番号：H18TC100

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 向井幹雄 報告書作成者氏名： 由雄享一 (会社名)パイオニア(株)

出席会議名(半角) TC100/PT62045	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC100(半角)
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input checked="" type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
開催期日	2006年9月27日 ~ 200 年 月 日			
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)ベルリン		
チャイノ/コバナ	由雄享一	幹事国 日本		
参加国及び 参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、米国、英国、中国、参加人数(8)			
日本人 出席者名(会社名)	[:補放対象者…(例): 電子太郎(JEITA電子)] 由雄享一(パイオニア), 市村元(ソニー), 江島直樹(松下)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
IEC62045 は民生機器内部に記録保持される個人の資産、プライバシー情報を保護することを目的とした TS でその DTS の審議を行った。				
1. 経緯				
Part1 は General として基本的構造と方法について記述されずに DTS が発行された。そのコメント締め切りが9月22日であり今回このコメントの審議およびその他 Part2 以降に関する論議を行った。				
2. 投票結果				
会議に前後し正式に報告され、P メンバーの 100%賛成により当 DTS は成立した。				
3. コメント審議				
エディトリアル以外は日本からの Part2 に関する意見を審議し採用することに決定した。				
内容は民生機器でのソフトウェア制御による情報保護方法を Part2 とすることで、先回の PT 審議で PC ベース機器は当 TS のスコープに含めないこととしたが現在の民生機器構造はソフトウェアに依存する場合が増えており、Part1 のハードウェアへの方法について Part2 としてソフトウェアによる方法を策定することに決定した。				
TC100 に報告し上部委員会の承認を待つ。				
4. Part1 DTS				
エディトリアル修正し 10 月に中央事務局へ提出、発行する。				

- [注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局: (社)電子情報技術産業協会 標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11 ((三井住友海上別館ビル) Tel: 03-3518-6435 Fax: 03-3295-8727

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 松村 秀一 報告書作成者氏名： 松村 秀一 (会社名)富士通(株)

出席会議名(半角)	区 分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA8(半角)
TC100/TA8	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input checked="" type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input checked="" type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他	名 称 (日本語)	マルチメディアホームサーバ
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催		
開催期日	2006年 9月 25日 ~ 2006年 9月 29日		
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)ベルリン	
チャイ/エバナ	松村 秀一	幹事国	日本
参加国及び 参加人数	6ヶ国、主な国名 日本(8) 中国(3) ドイツ(1) トルコ(1) オランダ(1) 韓国(6) 参加人数(20)		
日本人 出席者名(会社名)	[:補加対象者…(例): 電子太郎(JEITA 電子)] 本田文雄(富士通) 松村 秀一(富士通) 松下剛士(シャープ) 村上敬一(富士通) 吉岡誠(富士通) 安田浩 (東京大学) 向井幹雄(ソニー) 高田薫(JEITA)		
議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)			
背景、目的： 今回の会議は TA8 会議としては 05 年 9 月のサンノゼに次ぐ会議となり、PT62224, PT62227, PT62295 の進捗状況の報告および検討が主目的である。冒頭、TAM が交代、AGM で承認されたことを報告した。TAM 前任者の村上さんへメンバーからこれまでの貢献に対して感謝の言葉が述べられた。			
1. Active Project の報告			
1.1 DRM 関連プロジェクト			
(1) PT 62224 TS: Conceptual model for digital rights management 最終投票で可決されたが US から ITU-T SG9 の JDRM との関係の明確化が求められていた。これに対して、JDRM の目的や要求条件は、PKI を軸としてセキュリティ上の堅牢性の保証を目指している本文書と矛盾しない。TA1 から、OMADRM を参照する IPDC(DataCast)の標準が提案された。OMA DRM は本文書の概念に沿っており、一つの実装形態であると考えられる。 と説明し、US 代表者に説明し理解を得ることができた。IEC 62224 Technical Specification として出版される。			
(2) PT 62227: Digital rights permission code エキスパート(オランダ・アメリカ)参加者に対して、日本(シャープ)からドラフトの紹介を行い、Committee Draft として各国に回付することが了承された。			
(3) 韓国から提案のあった Multimedia DRM interoperability については結論に至らず継続して審議する。			
1.2 PT 62295: Common communication protocol for generic linkage on heterogeneous networks Prof. Lee から状況報告の後、1stCD に対する各国からのコメントに対応した回答が説明され、出席メンバーから承認された。これを受け CD を改版し 12 月末に向け CDV が発行される。			
2. Maintenance of TR62291-API for UDAC based file system 10/27/06 までにコメント、無い場合には次回は 2005-5			
3. Other business - AGS での結果に基づきドメインコンセプト・管理は TA8 で審議されることになったことを報告、承認された。 - PT62295 は引き続き TA8 で取り扱うことで承認された。			
最後に、次回の TA8 会議は 2007 年 10 月の TC100 総会に併せて開催することが承認された。			

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

(社)電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号: 158-3/TC103

提出日: 2006年10月12日

(報告者記載)整理番号:

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 高橋泰雄 報告書作成者氏名: 高橋泰雄 (会社名)東芝

出席会議名(半角) TC103	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC103(半角)
	<input checked="" type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
		<input type="checkbox"/> 単独開催 <input type="checkbox"/> 同時開催		
開催期日	2006年10月10日 ~ 200 年 月 日			
開催場所	(国名) フランス		(都市名) ラディファンス	
チャイルド/エバナ	Pierre Vasseur (フランス)		幹事国 フランス	
参加国及び 参加人数	4ヶ国、主な国名 日、仏、独、スイス、参加人数(9)			
日本人 出席者名(会社名)	[:補放対象者…(例): 電子太郎(JEITA電子)] 小川博世(NICT)、小牧省三(阪大)、高橋泰雄(東芝)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
1. 概要				
TC全体会合として、CDV案の審議(2件)、新課題、今後の新課題、について審議				
2. CDV文書の審議				
(1) 62273-1(地上デジタル放送送信機測定方法); 原案は日本とフランスが中心になってまとめたもの。今年1月のPT会合で修正された案のFDIS化について審議しFDIS化を決定。				
(2) 62272-1(30MHz以下のデジタルラジオ(DRM)送信機の測定方法); 原案はスイスとフランスが中心となってまとめたもの。62273-1と同様にPT会合で修正された案のFDIS化について審議し、FDIS化を決定。				
3. 新課題について				
103/62/NP; デジタル放送送信ネットワーク測定方法に関する提案。7月にサーキュレートされ、10月末に投票が締め切られる。本NPは日本からの提案なので、NPが採択されればPLは日本が引き受けることになる。				
未定; デジタルラジオ(DRM)に関する同様のネットワーク測定方法を新たに提案することになった(スイス&フランス)				
未定; 「マイクロ波・ミリ波 光変換器の測定方法」				
阪大 小牧先生が提案。この分野は従来SC46Fで審議されていたが、SC46Fは「マイクロ波受動回路」が取り扱い分野のため、無線波の測定のためにはTC103とのJWGが必要との判断からTC103に提案されたもの。審議結果、TC103の新課題として提案することになった。				
未定; プロ用SNMPを新課題とすることを検討中、との発言が議長よりあり。10/11にTC100の関連メンバーと調整し、合意が得られた場合新課題として提案される可能性がある。				
4. その他				
今後の活動方針についてフリートークングを行なった。今回は特に結論を出さず今後意見を交換することになった。				

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(社)電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号： 158-3 / CISPR / I-

提出日： 2006年8月31日

(報告者記載)整理番号： 158-3/CISPR-

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 玉田 正信 報告書作成者氏名： 千代島 敏夫 (会社名) (株)PFU

出席会議名(半角)	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	CISRP SC-I(半角)		
CISPR I WG2 WG3 (併催)	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input checked="" type="checkbox"/> WG	名称 (日本語) マルチメディア機器等に関する EMC	
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG		<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG		
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG		
開催期日	2006年8月7日 ~ 2006年8月11日					
開催場所	(国名)米国	(都市名)バンクーバー(オレゴン州)				
チャマン/コバナ	ストア氏	幹事国 日本				
参加国及び 参加人数	13ヶ国、主な国名 英国、フランス、イタリア、デンマーク、ドイツ、米国、参加人数(36)					
日本人 出席者名(会社名)	[: 補加添者…(例): 電子太郎(JEITA 電子)] 雨宮 不二雄/NTT アドバンステクノロジー(株)、秋山 佳春/NTT 環境エネルギー研究所、長部 邦廣/(株)VLAC、 山口 高/日本BM、堀 和行/ソニー(株)、千代島 敏夫/(株)PFU、田上 雅照/富士通(株)					
議事概要(背景・目的・成果・問題点など)	(この欄は 見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大26行まで記入できます。)					
<p>CISPR I WG2 では、マルチメディアエミッション規格 CISPR 32 の検討をしている。この3月に各国に配布された CD には、831 件ものコメントが各国から寄せられた。多くの技術的コメントが出され検討が必要なため次のステージは、2ndCD を発行することとなった。</p> <p>今回すべてのコメントを検討する時間がないため、重大なコメントについて検討した。おもな決定事項を次に示す。</p> <p>(1) 複数の試験法を規定したために追加された、9 項についてさまざまな問題点が指摘された。これらの問題は、複数の試験法を採用することに起因するため改めて、複数の独立試験方法を追加するか否かが投票され、日本のみ反対、その他は賛成となった。(2) 試験法として提案されている FAR, TEM, RC の配置条件 (図) を準備することとなった。</p> <p>(3) クラス分けの Class B の定義の用語の Dwellings (住宅) は適切でないため、修正を検討することとした。</p> <p>(4) イーサネットを通信ポート伝導妨害測定の対象とすることが議論された。さまざまな意見があり、文書で各国に意見を聞くこととなった。(5) Professional audio 機器も本規格の適用範囲とすることとなった。詳細の提案内容が準備されることとなった。(6) PC の表示条件の H 文字スクロールを復活する提案あり。タスクフォースを結成して、検討することとなった。(7) Class A 機器への警告文について復活することとなった。文章は規制的でないように修正する。</p> <p>(8) RF ポートの伝導妨害試験の追加について、その必要性についてアンケートを準備することとなった。</p> <p>今後の予定：9月開催のストックホルム会議では、CC 文書へのセクレタリコメント追加を完成させ、今回議論できなかったすべてのコメントについて検討する。1月に WG2 を開催し、2nd CD 作成のための検討を実施する。</p> <p>同時開催の WG3 は、情報技術装置のエミッション規格 CISPR 22 およびイミュニティ規格 CISPR 24 のメンテナンスを担当している。今回は、CISPR 24 に最新の基本規格である IEC 61000-4 シリーズをどのように取り込むかについて検討された。主な決定事項を次に示す。(a) 1GHz 以上の RF 放射電磁界イミュニティ試験については、日本と英国が賛成。その他は反対意見が多く、タスクフォースを結成して検討することとした。(b) 高周波連続伝導試験</p> <p>IEC 61000-4-6 最新版の採用について、英国が強く反対している。反対理由を文書で提出することとなった。(c) オペレータ介入を許す一般判定基準(日本提案)については、電話機で呼が切れたとき、フックするのが OK となる例や、USB でエラーしたら抜き挿しするのも OK となる例が取り上げられた。重大な品質低下だという意見もあり、タスクフォースを結成して、検討することとなった。</p>						

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

(社)電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号： 158-3 / CISPR / I-

提出日： 2006 年 10 月 10 日

(報告者記載) 整理番号： 158-3/CISPR-

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 玉田 正信 報告書作成者氏名： 堀 和行 (会社名) ソニー(株)

出席会議名(半角)	区 分	組織番号 (TC/SC/TA)	CISPR SC-I(半角)
CISPR I WG1	<input type="checkbox"/> TC <input checked="" type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他	名 称 (日本語)	マルチメディア機器等に関する EMC
CISPR I WG2	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		
CISPR I WG3	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		
CISPR I WG4	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		
開催期日	2006 年 9 月 18 日 ~ 2006 年 9 月 20 日		
開催場所	(国名) スウェーデン	(都市名) キスタ	
チャマン/コパナ	Tzimenakis(WG1), Storrs(WG2), Pettit(WG3), Devies(WG4)	幹事国 日本	
参加国及び 参加人数	24 ヶ国、主な国名 英国、フランス、ドイツ、米国、中国、韓国、参加人数 (90)		
日本人 出席者名(会社名)	[: 補加対象者... (例): 電子太郎(JEITA 電子)] 雨宮 不二雄 / NIT アドバンステクノロジー(株)、秋山 佳春 / NIT 環境エネルギー研究所、羽田 隆晴 / (財)日本品質 保証機構、長部 邦廣 / (株)VLAC、山口 高 / 日本BM、千代島 敏夫 / (株)PFU、田上 雅照 / 富士通(株)、堀 和 行 / ソニー(株)		
議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)			
<p>背景：年1回開催される CISPR 総会。CISPR I はマルチメディア機器の EMC 規格を担当している。</p> <p>目的：WG1 は、受信機、AV 関連機器のエミッション規格 CISPR 13 およびコミュニティ規格 CISPR 20 のメンテナンスを担当。今回は、前回1月のサンタフェ会議にて継続検討となった CISPR 20 での大型機器に対する放射電磁界イミュニティ測定法等について検討した。WG2、WG4 は、マルチメディアエミッション規格 CISPR 32、イミュニティ規格 CISPR 35 を検討。WG2 では、2006 年 3 月に回付された CISPR 32 CD に対する各国コメント約 800 件を 8 月の WG に続き審議した。WG4 は、2006 年 4 月に回付された CISPR 35 DC に対する各国コメント約 400 件を 8 月の WG に続き審議した。WG3 は、情報技術装置のエミッション規格 CISPR 22 およびコミュニティ規格 CISPR 24 を担当。</p> <p>成果：WG1；CISPR 20 のストリップライン法と IEC 61000-4-3 の相関に関する TF の結果が報告され、限度値の変更を提案していったが審議の結果、限度値の変更は行わずドラフト DC 文書を作成し、CISPR 35 に反映させる。K2 ファクタを削除する CD 文書案を提出する。WG2；前回 8 月の会議以降のアクションアイテム(11 項目)、TF(シールド遮蔽効果、ビデオパターン)の進捗、および主要な 3 項目について確認。日本コメントについて 2 件確認した。主要 3 項目の結果：1)規格のタイトルは CISPR 32: Electromagnetic compatibility (EMC) - Multimedia equipment - Emission characteristics - Limits and methods of measurement に修正。2) 1GH-3GHz の許容値を、CISPR 22 Ed.5.2 と同じにする。3) 受信機の局発の緩和は、FM 受信機のみ限定。日本コメントの確認：a) JP69：FAR の床置き装置は 1GHz 以上なので、フェライトクランプ削除を提案。受け入れられず FAR 床置き装置も適用する。ただし許容値は卓上装置と別に検討。b) JP100：測定距離の新しい定義提案は採用された。2nd CD に反映し来年審議。WG3；CISPR 22 の Non-invasive 測定法の CDV が可決されたことが報告。これに対しスイス、ドイツの NC より、試験結果が過小評価となると問題提起があった。CISPR 22 は現在メンテナンス中故、この課題の扱いを含め、FDIS か、2nd CDV かを TF で再検討し次回提案する。CISPR 24 では、MCR の内容を確認し、New CD を 2007 年 3 月末までに発行する。WG4；前回 8 月の会議以降のアクションアイテム 23 項目進捗状況を確認。12 月中旬を目処にまとめる。今回原案提出はなく、2007 年 1 月パリ会議で CD 案を審議。3 月 CD 回付、8 月に各国コメントを審議し、2nd CD、または CDV へ進める。</p>			

- [注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出して下さい。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11 (三井住友海上別館ビル) Tel: 03-3518-6435 Fax: 03-3295-8727